日本大學 農獣醫學部 校友會報

発行所
日本大学農獣医学部
校友会
編集発行者
会報発行委員会
印刷所
東京廃工KK

60年度 学部校友会 総会と懇親会

秋田県支部を承認

東京新宿で盛大に開催

昭和六十年度農獣医学部校友会総会が七月十三日（土）東京・新宿の京王プラザホテルの四十三階「スターライト」において、校友諸兄一六〇名の出席のもとに開催された。

総会は鹿野副会長を議長に選出し、議案審議に入った。

第一号議案は五十九年度校友会一般経過報告で石井事務局長より説明。①今春三月の卒業生に記念品（机上飾典）を贈呈したこと。②会報第三十七号を発行したこと。③理事会・会報など各委員会の開催状況。④会費・支部の現況。⑤広告収入。⑥会員数、準会員数の動向についての説明がなされた。

さらに大学および学部の現況についても一部ふれ、昨年九月高梨公学新総長による日本大学新執行部の陣容と久木田賢志学部長が副総長に就任されたこと。また、十二月の次期学部長選挙では、久木田学部長が圧倒的支持を得て再任されたことなどの報告があった。

第二号議案は会計決算報告の件で、月額会計担当からの説明と教職員給与の問題、状況。②会費会計の現況。③学生会費の現況。④学生会費の使途状況。⑤学生会費の使途状況。⑥学生会費の使途状況。⑦学生会費の使途状況。⑧学生会費の使途状況。⑨学生会費の使途状況。⑩学生会費の使途状況。⑪学生会費の使途状況。⑫学生会費の使途状況。⑬学生会費の使途状況。⑭学生会費の使途状況。⑮学生会費の使途状況。⑯学生会費の使途状況。⑰学生会費の使途状況。⑱学生会費の使途状況。⑲学生会費の使途状況。⑳学生会費の使途状況。㉑学生会費の使途状況。㉒学生会費の使途状況。㉓学生会費の使途状況。㉔学生会費の使途状況。㉕学生会費の使途状況。㉖学生会費の使途状況。㉗学生会費の使途状況。㉘学生会費の使途状況。㉙学生会費の使途状況。㉚学生会費の使途状況。㉛学生会費の使途状況。㉜学生会費の使途状況。㉝学生会費の使途状況。㉞学生会費の使途状況。㉟学生会費の使途状況。㊱学生会費の使途状況。㊲学生会費の使途状況。㊳学生会費の使途状況。㊴学生会費の使途状況。㊵学生会費の使途状況。㊶学生会費の使途状況。㊷学生会費の使途状況。㊸学生会費の使途状況。㊹学生会費の使途状況。㊺学生会費の使途状況。㊻学生会費の使途状況。㊼学生会費の使途状況。㊽学生会費の使途状況。㊾学生会費の使途状況。㊿学生会費の使途状況。

懇親会であいさつする佐藤会長

野総事からの報告報告を受けたのち、二面掲載の通り承認された。

続く第三号議案は会計予算案で石井事務局長から説明があり審議の上、二面掲載の通り満場一致で承認された。

第四号議案は支部の発足設立申請で、秋田県支部が承認された。なお、承認後支部を代表して平野三好氏より挨拶があった。以上をもって昭和六十年度総会を終了した。

引き続き同会場において農獣医学部の紹介「活動・躍進」の映画が上映された。映画は学部が日大芸術学部映画学科に依頼して、一年余りの長きに亘って撮影したものである。

学生と教職員が日夜一体となって教育・研究に取り組む姿を、まことリアルに描写したものであった。この映写会には、校友のほか来賓も多数参集された。映写後の感想としてとくに校友は、近代的な施設ならびに設備の充実に感嘆し、一層の発展を念願の挨拶がおくられた。

さらに同ホテルの四十三階「ムーンライト」に会場を移し、懇親会が開催された。木村庶務担当の司会により、白山副会長の開会の辞に続いて佐藤会長より挨拶があった。

引き続き来賓として日本大学ならびに日本大学農獣医学部名代表され、日本大学副総長で、もあり、農獣医学部長の久木田賢志先生より、ご祝辞と大学および学部の現況と今後の指針について、ご報告と挨拶が述べられた。

また同じくご来賓として、日本大学校友会本部事務局次長久慎真佐夫様よりご祝辞をいただいた。

続いて農獣医学部次長丸尾文治先生による乾杯のご発声で宴席に移った。

新宿副都心の高層から、夕暮の東京都内を眼下に一望し、多数のご来賓、校友、学部教職員の参会のもとたからかな歓談のひとときを過した。

懇親会終盤のあと恒例のお開きとなり、元農獣医学部長磯辺秀俊先生のカオニ唱と、西島羽副会長の閉会の辞をもってニ二時、散会を惜しみつつ閉会となった。

創立百周年記念事業の基本構想

本学は四年後の昭和六十四年に創立百周年を迎える。明治二十二年（一八八九）十月四日、山田顕義伯が日本法律学校を創設してより正に一世紀という記念すべき年である。大学は昨年百周年記念事業委員会を発足し、さらに各種委員会で検討され、その具体案として中間報告（日大学学広報・第二〇七号）が七月に大学に提出された。報告に盛り込まれた基本構想の概要は次の通りである。

【募金実行委】
募金目標額百億円、募金期間・六十二年六月から六十六年五月、募金は大学総体と各部科校の"二本建"で方式。

【建設実行委】
①情報センター、学際的研究機関をふまえ国際記念館②学祖・山田顕義記念碑建立③学祖の墓所整備

【式典実行委】
記念式典と祝賀パーティー、日程は六十四年十月四日。

【学術・国際シンポジウム 実行委】
行事は大学総体と各部科校の"二本建て"。始方講演を重視。
【百年史及び山田顕義資料編纂実行委】
"読まれる百年史"として検討。

【広報実行委】
シンボルマーク制定、山田顕義のTVドラマ放映、記録映画の製作など。

【各部科校】
"二本建て"など各部科校で独自に計画。これについての農獣医学部の計画は農場実験・実習管理棟の建設、沿岸海洋調査船の建造などが検討されている。

学部長の再任にあたって

日本大学 副総長
農獣医学部長
久木田 賢志

私は、昭和五十七年より学部長を、昨年九月よりは副総長を併せて拝命致し、且つまた、本年三月より教職員各位の支持により、二期目の学部長という重責を担うことになり、副総長もこの九月より二期目を引き拝命することと相成りました。

学部長就任来、既に二年有余を経過致しましたものの、この間、私のふつつかな実績を自問自答する度に、正に流汗三斗の想いではあります。しかし、自ら知る非力後才の中で精一杯努力を致したことは些か自負いたす次第であります。

昭和五十七年始めて学部長に就任するにあたり、私は信念の一端として①学園を相互尊信を基調とした明るい学園造りに導き得る。②私学としての社会的要請を弁えて、本学部の自主的かつ安定的財政資金計画を確立して諸問題の解決を計る。③本学部の歴史的発展と特徴を踏まえ、学科の利己的主義にこだわることなく、相互扶助の精神で学部全体の発展を期する。④日進月歩する科学の発展と社会的要請に耐え得るよう、人的、あるいは今後、さらに志向し推進致したいことの一、二を申し述べてみたいと存じます。

まず、第一に、山積している課題の整理と円滑なる運営のために諸規程の見直しと改訂を積極的に行ったのを始め、各種委員会の活性化をはかり、その各々の活用に心がけてきました。

これらについては、私なりの成果をあげ得たものと確信しております。

第二に学部の将来計画を考慮して教育研究に係る諸施設の充実を行って参りました。一昨年春、藤沢校舎厚木舎が完成したのを始め、この春には同じく藤沢キャンパスに林学科の実験・実習棟、獣医学科・畜産学科の動物舎がそれぞれ竣工致しました。これらの施設を利用して大いに成果があがるものと近い将来と考えております。

また、現在新しい総合計画の一環として大講堂兼体育館の建設が予定されており、目下設計の最終段階に至っております。

第三には、わが学部が志向する農業と農学は今後将来一国だけでは対処できないものと思います。世界共通の相手とする産業という面で、国際的に視野を広めなければなりません。それには海外との学術交流を計る必要があります。したがって、学部は学際的な交流を計ると同時に教育研究の推進、②学部の運営にあっては十分なコンセンサスの基に信念と勇断をもって対処するなどの点を申し述べました。

以上が私に課せられた責務であると言明し、三年間努力を傾注して参りました。

これらの課題に対し、皆様方のご支援ご鞭撻を心から祈念致します。

農獣医学部校友会役員

会長	佐藤 弘（食経）	
農獣医学部長	久木田賢志	
副会長	鹿野 忠（林学）	
理事	西島羽 曙（農学）	
〃	白山 巌（畜産）	
〃	高橋文次郎（農学）	
〃	宮浦 敏磨（農学）	
〃	茂沢 呆（農化）	
〃	江刺 琢磨（農化）	
〃	木嶋 弘倫（農化）	
〃	田中 延吉（獣医）	
〃	日比野次郎（獣医）	
〃	長尾 壮七（獣医）	
〃	佐藤 昌介（畜産）	
〃	長野 実（畜産）	
〃	三木 敏夫（食経）	
〃	高坂 鉄雄（食経）	
〃	上野 喜昭（林学）	
〃	大川富士雄（林学）	
〃	杉浦 宏（水産）	
〃	添田 秀男（水産）	
〃	日野 演彦（水産）	
〃	一川 宏也（農工）	
〃	八木 茂（農工）	
〃	世良田和寛（農工）	
〃	野田 義人（食工）	
〃	中村 清一（食工）	
〃	青井 幸雄（食工）	
〃	庄川 洋一（拓植）	
〃	岡田 正男（拓植）	
〃	水野 包男（拓植）	
〃	冨澤 寿樹（短農）	
〃	山本 正義（短農）	
〃	斎藤 忠雄（短農）	
監事	山根 勝次（食経）	
〃	戸崎 紘一（農工）	
〃	坂野 忍（食工）	
事務局長	石井 賢治（農学）	
庶務	木村 貞司（畜産）	
〃	本江 一郎（林学）	
会計	月瀬 東（獣医）	

農獣医学部執行部

久木田賢志学部長は二期目の就任にあたり従来の学務・学生・研究の三担当に、新たに学生の就職問題を担当する就職指導担当（兼広報）を設け、金銭にわたる指導強化を計られた。

学部長　久木田賢志教授
東京帝大農学部農業経済学科卒。昭和二十二年本学に奉職。昭和四十六年に学生生活委員長、昭和五十七年三月農獣医学部長に就任。

昭和五十九年九月日本大学副総長に就任。専門は国際経済学。

学部次長　丸尾文治教授
東京帝大農学部農芸化学科卒。昭和五十三年同大学修士課程、名誉教授、同年九月本学教授に任命、昭和五十七年三月研究担当・研究委員会委員長を歴任。専門は応用微生物学

学務担当　門田定雄教授
日大農学部水産学科卒。昭和二十七年に本学教職員、昭和四十九年教授。昭和五十六年水産学科主任教授。昭和五十二年十二月学生担当に就任。昭和五十七年三月学務担当に就任。専門は海洋生物学

学生担当　唯野哲男教授
東北大工学部化学工学科卒。東北製薬、雪印乳業等に勤務。昭和三十八年本学教授。学園ニュース編集委員会委員長。多くの要職を歴任。昭和五十七年三月学生担当に就任。専門は食品化学工学

研究担当　大森常良教授
東京帝大農学部大学院前期修了。農林省家畜衛生試験場、東京大学講師。昭和五十七年本学教授。昭和五十九年研究奨励賞受章。昭和六十年三月研究担当に就任。専門は獣医伝染病学。

就職指導兼広報担当　島津 正教授
日大農学部農学科卒。昭和二十五年より本学勤務。昭和四十七年本学教授。大学院農学研究科農業経済学専攻主任、学内各種委員会委員歴任。昭和六十年就職指導担当に就任。専門は経済学。

学部事務局に次長誕生
農獣医学部の事務局は小田中酵事務局次長のもとに執行されているが、八月一日付で伊藤 進事務長が事務局次長に昇任された。本部より小関芳昭氏が本学部の事務長に就任された。

就職戦線 明るい見通し

来春卒業する学生の雇用状況は景気の回復の上昇を反映し、前年の採用実績に対して大きな伸びを示し昨年度より、本年度は更に一段と明るい状況のようである。

日本リクルートセンターが八月に調査した、上場企業一八一四社（回答一、五〇四社）では、大卒男子採用予定数は、前年より一七％増加している。（文系一五％増、理工系二〇・八％増）、同センターでは、大卒男子の三人に一人が上場企業に就職出来るだろうということで、本年度も昨年同様と推計している。

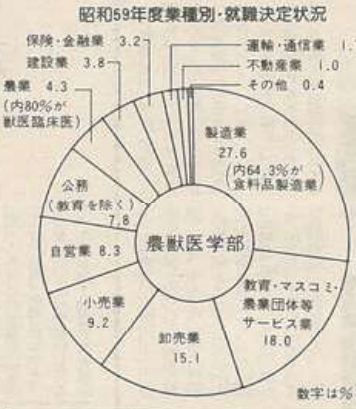
大卒女子については、男子と比べ、毎年厳しい就職戦線であるが男女雇用機会均等法が来春から施行されることで、今迄、女子を採用しなかった企業も採用を予定するなど、例年と比べ、若干明るい状況のようである。

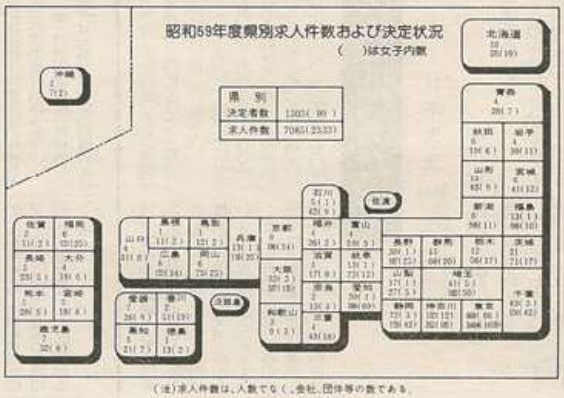
昨年度は、多くの者が夏休み中に内定が出るなど、就職協定は守られずに、協定の在り方が論議されたが、協定がないと一層混乱するとの意見が多く、本年度も昨年同様、十月一日企業訪問、十二月一日試験開始の協定であるが、就職戦線は昨年以上に加熱している。

この状況にこりおくれないよう学部の学生も、昨年度の求人関係資料を閲覧する者で、就職資料室は早い時期から連日賑わいをみせている。

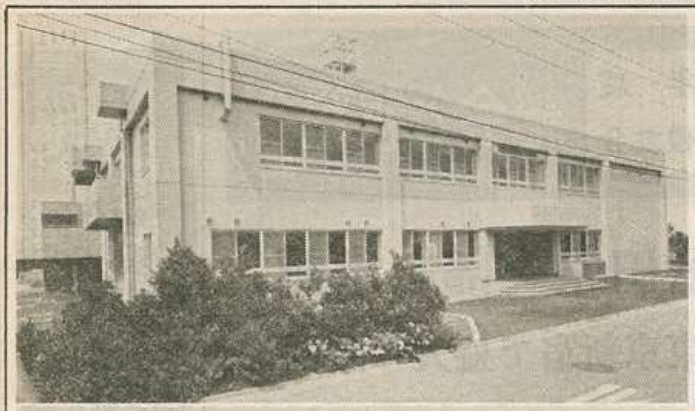
昨年度の学部の就職状況は別表の通りであった。

本年度も校友諸兄の御声援を願わりたい。





（注）求人件数は、人数でなく、会社、団体等の数である。



藤沢校舎に完成した動物実験棟（上）と林学実験・実習棟（下）

（事務局から）

本校友会は一年々々著しい発展をし、事務局には校友各位からの明るい話題や活動状況が寄せられております。心からお喜び申し上げます。

六〇年度総会を盛力の各地より校友多数の出席を得て終了することができました。校友会の目的は申し上げるまでもなく校友各位の親睦と向上にあることは勿論でありますが、母校の発展に寄与することも大きな目的の一つであります。

前にもお知らせ致しました日本大学創立百周年も迫ってまいります。これについては大学当局並びに学部当局で真摯な記念事業が計画されると思いますが校友会としても何らかの計画を樹立しなければなりません。いずれ関係委員会等で検討し計画されると存じますが、それらの結論は本会報等を通じお知らせ致したいと思います。その節は各位のご協力を心からお願い申し上げます。

校友会活動の唯一の情報誌で況る本会報も第三十八号の発行に反びました。内容および編集には各分科委員の協力によりますが、なお一層の努力を致したいと存じております。お気付のところがありましたら事務局までご連絡願います。

さらに校友会名簿の発行をありますが諸般の状況から本年は発行することは出来ません。昭四十諸和五十六年に校友会合併三〇年を記念し、約四万名の校友を集録した会員名簿となりました。昭五五年会員名簿を整理しました。事務局と致しましても近い将来発行できるよう考えてはおります。何分にも四万七千名にのぼる校友を纏っており前もって十分な準備計画が必要と存じます。事務局では本年度当りから準備に入る所存でありますが、校友諸兄のご支援をお願い申し上げます。

昭和59年度　日本大学農獣医学部校友会会計決算報告

（収入の部）

科目	予算	決算	差異	備考
1 前年度繰越金	1,432,177	1,432,177	0	
2 入会金	21,500,000	21,500,000	0	
3 昭和59年度 入学	20,980,000	20,980,000	0	＠10,000×1,898
4 昭和59年度 入学	780,000	780,000	0	＠10,000×78
5 昭和59年度 入学	55,000	55,000	0	＠5,000×11
6 昭和59年度 入学	15,000	15,000	0	＠5,000×3
7 昭和59年度 入学	90,000	90,000	0	＠3,000×30
8 昭和59年度 入学	10,000	10,000	0	＠5,000×2
9 昭和59年度 入学	0	0	0	
10 昭和59年度 入学	0	0	0	
11 昭和59年度 入学	0	0	0	
12 昭和59年度 大学院	0	0	0	
13 昭和59年度 大学院	44,000	44,000	0	＠22,000×2
14 繰越金 利子	1,040,000	868,525	△ 171,475	
15 その他 雑収入	0	15,100	15,100	
収入合計	24,957,177	24,810,813	△ 146,364	

（支出の部）

科目	予算	決算	差異	備考
1 学生会費	10,874,000	10,874,000	0	
2 昭和59年度 入学	10,400,000	10,400,000	0	＠2,000×1,898
3 昭和59年度 入学	390,000	390,000	0	＠5,000×78
4 昭和59年度 入学	15,000	15,000	0	＠1,000×3
5 昭和59年度 入学	3,000	3,000	0	＠3,000×1
6 昭和59年度 入学	44,000	44,000	0	＠2,000×22
7 昭和59年度 入学	6,000	6,000	0	＠1,000×6
8 昭和59年度 入学	0	0	0	
9 昭和59年度 入学	0	0	0	
10 昭和59年度 入学	0	0	0	
11 昭和59年度 入学	10,000	10,000	0	＠5,000×2
12 印刷費	1,900,000	1,842,177	△ 57,823	
13 会報費	1,600,000	1,600,000	0	
14 会報発送費	150,000	82,500	△ 67,500	
15 各種編集委員会運営費	150,000	0	△ 150,000	
16 総会費	900,000	900,000	0	100,000
17 各種会議費	1,300,000	1,277,500	△ 22,500	
18 事務局運営費	1,000,000	1,000,000	0	内訳
19 通信費	875,000	875,000	0	郵便料金(定額)郵送
20 雑費	50,000	22,425	△ 27,575	
21 予備費	1,700,000	1,697,000	△ 3,000	
支出合計	24,957,177	24,810,813	△ 146,364	

繰越金（基金）8,702,800（太陽神戸銀行　定期）　未収繰越金 2,239,340（三菱銀行　定期）

監査証明

昭和59年度日本大学農獣医学部校友会会計決算について諸表に監査した結果、適正に処理されていることを認めます。

昭和60年5月22日　監事　山根博次　坂野忠　戸崎紘一

昭和60年度　日本大学農獣医学部校友会会計予算

（収入の部）

科目	昭和60年度	昭和59年度	増減	備考
1 前年度繰越金	1,781,625	1,432,177	349,448	
2 入会金	20,500,000	21,500,000	△ 1,000,000	
3 昭和60年度 入学	18,890,000	0	18,890,000	＠10,000×1,889
4 昭和59年度 入学	1,300,000	20,980,000	△ 19,680,000	＠10,000×130
5 昭和60年度 入学	10,000	780,000	△ 770,000	＠10,000×1
6 昭和59年度 入学	0	55,000	△ 55,000	
7 昭和60年度 入学	60,000	15,000	45,000	＠5,000×12
8 昭和59年度 入学	0	90,000	△ 90,000	
9 昭和60年度 入学	0	10,000	△ 10,000	
10 昭和59年度 入学	0	10,000	△ 10,000	
11 昭和60年度 大学院	30,000	0	30,000	＠15,000×2
12 預金利子	1,000,000	1,000,000	0	
13 その他 雑収入	0	0	0	
収入合計	23,181,625	24,882,177	△ 1,251,552	

（支出の部）

科目	昭和60年度	昭和59年度	増減	備考
1 学生会費	10,168,000	10,874,000	△ 706,000	
2 昭和60年度 入学	9,625,000	0	9,625,000	＠5,000×1,925
3 昭和59年度 入学	890,000	10,400,000	△ 9,800,000	＠5,000×178
4 昭和60年度 入学	5,000	390,000	△ 385,000	＠5,000×1
5 昭和59年度 入学	0	15,000	△ 15,000	
6 昭和60年度 入学	20,000	0	21,000	＠2,000×10
7 昭和59年度 入学	0	54,000	△ 54,000	
8 昭和60年度 入学	0	6,000	△ 6,000	
9 昭和59年度 大学院	0	10,000	△ 10,000	
10 昭和60年度 大学院	10,000	0	10,000	＠5,000×2
11 総会費	0,000,000	4,900,000	1,100,000	
12 入会費	1,800,000	1,800,000	0	
13 本部分担金	300,000	300,000	0	
14 事務局運営費	500,000	400,000	100,000	
15 通信費	1,600,000	1,600,000	0	
16 会合費	1,300,000	1,200,000	100,000	
17 交際費	300,000	300,000	0	
18 通信費	200,000	100,000	100,000	
19 事業費	6,000,000	4,200,000	1,700,000	
20 記念事業基金	2,000,000	1,000,000	1,000,000	5年間で積立とする
21 会報費	1,200,000	1,000,000	200,000	発送分 40,000部
22 各種編集委員会運営費	150,000	100,000	0	
23 各種編集委員会運営費	150,000	150,000	0	
24 記念事業	500,000	500,000	0	今会所利用料(もーあん・会山館等)
25 本部寄付記念品	1,000,000	1,000,000	0	机上辞典(1,000部)
26 教科書費	0	3,300,000	△ 3,300,000	
27 予備費	900,625	875,177	57,448	
支出合計	23,181,625	24,882,177	△ 1,251,552	

繰越金（基金）8,702,800（太陽神戸銀行　定期）　未収繰越金 2,239,340（三菱銀行　定期）

学部祭

東京と藤沢校舎で開催

今年の学部祭は、東京校舎（三茶祭）が十月二十六日（土）より二十八日（月）までの三日間と、藤沢校舎（藤桜祭）が十一月三日（日）、四日（月）の二日間開催されます。

統一テーマは「現在（いま）・自然と青春の躍動」と決まり、学部祭実行委では盛り沢山の企画を立てております。校友諸兄のご来校を心からお待ちしております。

会報編集委員

委員長　西島羽　曙
農学校友会　坪木　良雄
柴友会　桜井　英敏
角笛会　白井　弥
葡萄園会　小牧　弘
いもづる会　下渡　敏治
林学科校友会　鍛代　邦夫
桜水会　吉原　喜好
工学会　川西　啓文
食品工学会　千野　誠
拓友会　井上　雅也
むつあい会　斎藤　忠雄
（事務局）
石井賀治　・　木村貞司
本江一郎　・　月瀬東

日本大学農獣医学部・短期大学部農業科案内

大学院　農学研究科　農学・農芸化学・畜産学・農業経済学・水産学・農業工学・食品工学の各専攻
獣医学研究科　獣医学専攻
大学　農学・農芸化学・獣医・畜産・食品経済・林学・水産・農業工・食品工・拓植の各学科
短期大学部　農業科

昭和61年度　入試科目・期日

学部	昼・夜	学科	入試期日	入試科目
農獣医学部	昼	獣医・農業工・食品工	2月14日(金)	数学「数学Ⅰ、数学Ⅱ」、「数学Ⅰ、代数・幾何」、「数学Ⅰ、基礎解析」、「数学Ⅰ、微分・積分」、「数学Ⅰ、確率・統計」のうちから1科目選択 理科－物理、化学、生物のうちから1科目選択 外国語－英語Ⅰ、英語Ⅱ
		農学	2月14日(金)	国語「国語Ⅰ、国語Ⅱ」、「数学Ⅰ、数学Ⅱ」、「数学Ⅰ、代数・幾何」、「数学Ⅰ、基礎解析」、「数学Ⅰ、微分・積分」、「数学Ⅰ、確率・統計」のうちから1科目選択 理科－物理、化学、生物のうちから1科目選択 外国語－英語Ⅰ、英語Ⅱ
		農芸化学・畜産・林学・水産	2月17日(月)	国語－国語Ⅰ、国語Ⅱ 社会－日本史、政治・経済、地理のうちから1科目選択 外国語－英語Ⅰ、英語Ⅱ
		食品経済	2月17日(月)	国語－国語Ⅰ、国語Ⅱ
		拓植	2月14日(金)	国語「国語Ⅰ、国語Ⅱ」、「数学Ⅰ、数学Ⅱ」、「数学Ⅰ、代数・幾何」、「数学Ⅰ、基礎解析」、「数学Ⅰ、微分・積分」、「数学Ⅰ、確率・統計」のうちから1科目選択 理科－物理、化学、生物のうちから1科目選択 外国語－英語Ⅰ、英語Ⅱ
短期大学部	昼	農業科	3月7日(金)	

授業校舎
●農学科、獣医学科、畜産学科、農業工学科の4学科は藤沢校舎。
●農芸化学科、食品経済学科、林学科、水産学科、食品工学科、拓植学科の6学科は、1年次だけ藤沢校舎。2年次より東京校舎。
●短期大学部農業科は藤沢校舎。

★入試関係についての照会は、
（〒154）東京都世田谷区下馬3-34-1
日本大学農獣医学部入試事務室へ

農学校友会

◇農学科◇

本年も秋たけなわの季節となり、校友諸兄姉へ年一度のニュースをお知らせいたします。

総会

昭和五十九年度の総会に代る幹事会は去年一月二日（土）午後四時より農沢校舎本館二階第一会議室で各別幹事多数出席のもと、開催され、前年度の事業一般経過報告、会計決算報告に続いて昭和五十九年度の予算案が審議され、万場一致で承認可決されました。その後、会食に移り、久し振りに顔を会わせる幹事諸兄姉の盃に花が咲く懇談が続き盛会裡終了いたしました。

「農学校友会三十年のあゆみ」の頒布について

非常に好評を頂いております記念誌「農学校友会三十年のあゆみ」は未だ残部がありますので、お求め希望の方は急急、農学校友会事務局、庶務担当の井上広朗氏まで申し込み下さい。

農学校友会三十年記念樹、すくすく生長

昭和五十八年秋に植樹されました農学校友会設立三十年の記念樹の「たぶのき」は農学研究室の皆さんの手厚い管理のもと、すくすくと生長し、写真のように約二倍の高さになりました。やがては記念庭園随一の大木になることと思います。どうか諸兄姉が母校へお立寄りの節は是非一度、その生長ぶりを見てやって下さい。

慶弔

本会の会員会員であります萩原時雄先生は昨年、めでたく米寿をお迎えになられ、ますますお元気で「私も木原　均先生のようにもっと研究を続けたい」なと張切っておられます。しかし、悲しいことに江口唐雄先生（享年八十六才）は昨年十一月七日に老衰のため、自宅の近くの病院で他界されました。校友諸兄姉とともに心から謹慎福を お祈りいたします。

学科内の現況

今春三月、三十九期生（新入会員）一四〇名を送り、農学校友会々員数は、二四四名となりました。さらに四月は一七〇名の新一年生（準会員）を迎え、高野文次郎学科主任を始め、科内教員一同、研究に、学生の教育に生甲斐命です。一年次学歴担任は佐々木教授、岩野専任講師と教養の百田助教授で、二年次は萩原教授と米田助教授、三年次は坪木教授と井上専任講師、四年次は萩原助教授と兼平専任講師です。

このたび、学園図書館長である萩原　務教授はこの四月より兼ねて日本大学藤井沢研修所長に就任されました。先生のますますのご活躍をお祈りいたします。

この四月より岩野秀俊助手と野村和成助手が専任講師に昇格され、また、三十七期卒の百瀬博文氏（花弄園芸学研究室）が助手に就任されました。皆さん、いずれも若手のホープとして研究に、教育にますます研鑽されることを祈ぶいたしますとともにご活躍を期待いたします。

藤井秀治専任講師は昭和六十年度日本大学海外派遣研究員（長期）として、米国カリフォルニア大学農学部（デーヴィスキャンパス）に一カ年滞在し、研究されることになりました。由発は来春三月の予定です。御成功をお祈りいたします。

◇学生の農業事情視察について

卒業生の諸兄姉も懐しく思われるかも知れませんが、例年、農学科では学生の学外研修により農学についての知識を深めるため、一年次から三年次にかけてそれぞれ各方面に分れて研修旅行を実施しています。本年は

一年次　入学早々でもありますので新入生の紹介とお互いの親睦および農業についての見聞を広めるため、五月十二日（日）、十三日（月）にわたって一泊二日の見学旅行を行いました。見学先は伊豆のパナナ・ワニ園、熱帯植物園、富士急ハイランドセンターでした。

二年次　五月十日（金）に日帰りで静岡県下の農業事情を視察しました。見学先は農林水産省系試験場、同省果樹試験場および八ヶ岳山の石垣イチゴ栽培状況で、いずれも特色ある作物を見学し、有益な研修でした。

三年次　三年次は一年次からの総まとめの意味をこめて七月二十四日（水）、二十五日（木）の一泊二日にわたって山梨県、長野県および静岡県下の農業事情を視察しました。見学先はサントリー山梨ワイナリー、長野県川上村農業協同組合緑川農場の高冷地レタス栽培、上信越高原国立公園、群馬県農業総合試験場高冷地分場での蜀葵村高冷地キャベツ大規模栽培および同県農業試験場での人工解凍方式による農業を見学し、大きな成果を得て無事終了しました。四年次へ向けての大事なステップとなることでしょう。

◇農学科各研究室の教員の紹介

作物学研究室（二名）
教授　坪木良城、専任講師　藤井茂昭

果樹蔬菜園芸学研究室（二名）
教授　高橋文次郎、専任講師　井上広朗

花弄園芸学研究室（三名）
教授　佐々木弘康、助教授　米田和夫、助手　百瀬博文

遺伝育種学研究室（二名）
教授　石井賢治、専任講師　野村和成

農業気象学研究室（二名）
教授　萩原　務、助手　片木佳代子（旧姓古川）

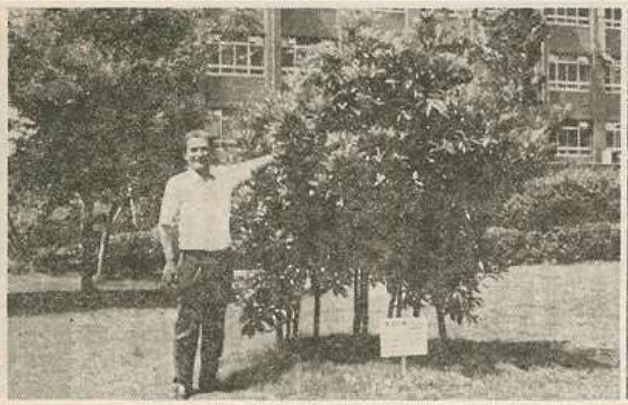
植物病理学研究室（二名）
助教授　篠原正行、専任講師　兼平　勉

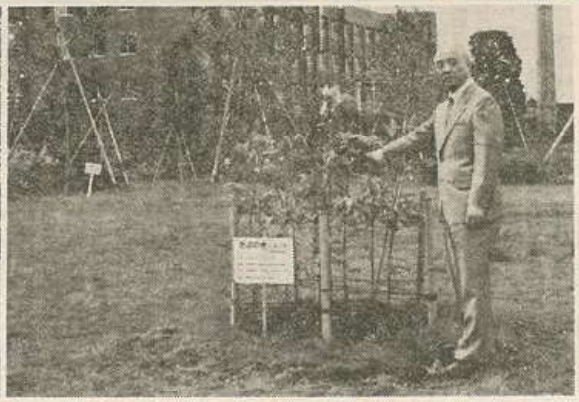
応用昆虫学研究室（二名）
教授　石原　慶、専任講師　岩野秀俊

造園学研究室（二名）
教授（研究所）吉川　勇、助教授　勝野武彦、助手　葉山嘉一

◇来春卒業予定の就職状況について

例年のことではあるまかが、四年次学生は現在、卒業論文で、就職試験に汗だくになって頑んでいます。したがって、担任の篠原助教授と兼平専任講師を中心に科内教員一丸となって就職斡旋に当っておりますが、卒業生の諸先輩におかれましても、どうか例年のように暖かいお添をもってお招待いたしておりますのでよろしくお願いいたします。（坪木良城）





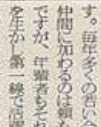
たぶのき（いぬぐすり）
くすのき科

学名　Machilus Thunbergii
特徴　常緑高木　臨海性自然林主要構成木
分布　本州関東、中南部、四国及び九州
植樹　農学校友会30年記念樹

写真＝右上は昭和五十八年秋・二月西島羽　曜会長
左上は昭和六十年　秋・二・三
計（高橋文次郎学科主任）左下は記念樹立札

紫友会

◇農芸化学科◇



会員の皆様お元気にお過しですか。暑さの厳しかった今年の夏も秋になりきり、ようやく読書の秋を迎え、各方面で御活躍の事と存じます。毎年多くの若い会員の方々が仲間に加わるのは頼もしいかぎりですが、年輩者もそれぞれの経験を生かし第一線で活躍されて居られます。最近はぼつぼつ私もその年輩者どもの末席をけがす年頃になってしまった様ですが、何故か現在の事とは全く関係無しに、昔覚えた事のかけらが、頭の片すみにひっそりと残って居る事があります。私が「むらさき」という雲樂を耳にすると、思い浮ぶのは甲子園も然り我が「紫友会」と、私達の同期会である「むらさき会」ですが、もう一つ「東京市歌」というのがあります。貴市内（今は東京都ですが昔は東京市でした）の小学校で市歌発足の記念日が何かに歌って居りました。よくは分かりませんが今は都上方も歌われないかも知れませんのの問題は昨年十一月十七日午後五時より帝国ホテルの「孔雀南の間」において行なわれた。ご出席者は、百二十余名の出席の方々を含め、百二十余名の出席を得、実行委員の奥宮武民の司会で、まず、江刺家勝副会長より開式の辞、次に茂沢果会長より式辞が述べられた。続いて校友会を代表して佐藤弘一本部校友会副会長・農獣医学部校友会会長、次に大学本部・学部を代表して久木田賢吉副総長・農獣医学部長、さらに農芸化学科を代表して宗岡治義主任教授（当時）より、それぞれ祝辞をいただいた。

引き続き、これまで紫友会発展のために尽力なされた矢村収元農芸化学科主任教授、小野豊樹元農芸化学科教授、川村一郎元農学科農産製造学専攻助教授（現、青山大学名誉教授）、西川英次郎元農芸化学科教授、小関浩元紫友会会長、故茂沢雄前紫友会会長、石井謙二元紫友会事務局長および名取正彦前紫友会事務局長の各位に対して紫友会からの感謝状と記念品が茂沢会長より感謝の意を込めて贈呈された。また、農芸化学科に対しても記念品が贈られた。

最後に、江刺家会長による閉式の辞で、式典は滞りなく終了、祝賀パーティーに移った。

祝賀パーティーは矢村元農芸化学科主任の開宴により乾杯、祝宴に入った。祝宴では茂沢会長より来賓の紹介がなされ、会場いっぱいに歓談の声が吹いた。宴もたけなわとなった午後八時、小関浩氏の閉会の辞によって、祝賀パーティーはつつがなく終了した。尚、帰路、記念誌「紫友会30年のあゆみ」を出席者全員に配布しました。

紫友会30周年記念式典であいさつする茂沢果会長

30周年式典を開催

大村元主任教授らに感謝状を贈る

祝賀パーティーでの万歳三唱

紫友会偶感

監事　永田平治郎

同じ関東平野なので、成いは…。…と勝手に考えて居ります。こんな訳で、少々私事になる雑感ですが、学生時代には「むらさき匂いし」武蔵の国から「紫陽」にかけゆる学び舎に通って思い出になり、幾からの因縁と考えて居る次第です。昨今はクリエーションに別れる大繁盛場チェーンまで、同じ発音の店が繁盛して居るようですが……此の「むらさき」について教年前の同期会で、予科時代の恩師のお一人である岸上先生が、つまり、我が紫友会は、活発に、です。

ところで今年はあの終戦の日から四十年がたちました。私達世代の人が学徒動員から帰り、ろくな食物も無い寮活を強いられた世の中だった事を考えますと、今昔の感を禁じ得ません。当時は「撃ツ此んなだいなた」といって見ても行くべき「東京」は一面の焦野が原でした。それに引き換えこの豊かさの有難味はもちろんとされられ勝ちですが、それとも、発行されました。終身会費もこの平和は、世界の人々が願い

祝賀パーティーでの万歳三唱

友会会長の音頭で万歳三唱、続いて実行委員会を代表して木船弘倫

◇学科の動き◇

人事の面では、石井謙二教授が四月一日付で学科主任に就任されました。また、奥宮武専任講師も同日付で助教授に昇格されました。

見宮武専任講師は四月一日付で農芸化学科から昭和農業科の副手に移られた。代って斉本の佐藤美子さんが副手として採用されました。

留学関係では、土壌学研究室の山本一彦助教授が三月末より一ヶ年海外留学（ニュージーランド科学産業省土壌研究所）された。

◇おくやみ◇

小野豊樹元農芸化学科教授・五月二十八日死去。八十二歳

小関浩紫友会初代会長・七月五日死去。六十一歳（桜井英徳）

をあめて二つ一つ積みに上げて来た積木の家、その感想にまった白い知らずまません。一つ間違えば積木は一瞬にして崩れ平和の崩もどこか飛び去ってしまうでしょう。毎年八月にありますと総理府が国民の生活に対する意識調査をまとめて発表致しますが、今年も昨年同様に改意識を持つ人が約90%を占め、衣食に物よりも心の豊かさを求める比率が増えているとの事です。個人差はあっても多くの方が、物の豊かさにほと満足しているため、心の豊さを求めるのとりが出て来たのと思われます。申すまでもなく心の豊さの内容は非常に巾広いものではありますが、学友会も会員なれどと求められるものがあるさとであり、どの様な海に求めようがよろしいなるのではないでしょうか。会員の皆様の中には、こよなく孤独を愛する方もいらっしゃるとは存じますが、せめて年に一度は懐郷会に御出席され、会を盛り上げて下さる様お願いする次第です。

暮りにのぞみ会員皆様の御健康と、御活躍をこころから祈ってやみません。

角笛会

◇獣医科学科◇

角笛会新役員の紹介

角笛会の活動は全く休止し、空白の状態が長らく続いていましたが、埼玉県支部長松下敏一先生はじめ十名の関東近県の校友の先生方のお力を借て、何何に同建べき色々と難題がありましたが、五十九年度に支部会長会議の開催そして十一月二十四日には総会開催のはこびとなり、新役員が承認されました。

なお新役員は、会長・田中延吉（神奈川県）、副会長・長尾壮七（大学）・日比野欣郎（東京都）・富田高司（新潟県）・吉田員（埼玉県）・佐藤敏（大学）の先生方となりました。

事務局は、前事務局長の久郷先生の逝去に伴って、この六月二十三日、役員会により次の様に新事務局が決定されました。

事務局長・福田陽一、庶務幹事・渡部敏、会計幹事・村松栄治、名簿担当幹事・吉田仁夫、広報担当幹事・白井弥の先生方です。

なお会長はじめ役員、事務局の先生方は角笛会の発展のため努力されておられます。

角笛会　六十年度総会

正副会長会議が九月三日、東京校舎において開かれ、九月七日の理事会の準備をされました。

九月七日の理事会は藤沢校舎で開催され、六十年度の総会は十月十七日（日）二時より東京下馬校舎で行なわれることになりました。お引き続き夜四時二十分から三軒茶屋、銀座アスターで懇親会が開かれます。多くの会員の出席をお願いします。

大槻昌夫先生が春の叙勲を受章

大槻昌夫先生（九年卒）は、この春の叙勲で勲五等瑞宝章を授されました。これは、大槻式電撃器の発明によるものです。この電撃器は、と畜場で豚を殺る時に脳神経に通電する器械で、これにより豚は失神して倒れ、意識を取りもどさないうちに放血殺をする方法で、この電撃器の発明されるまでは、棍棒による方法でなぐり殺なぐり殺しの方法なので、よい方法はないものかと考案されたとのことです。

今後、益々の御活躍を期待します。

全国獣医師会長に本学科校友から九名

角笛会員で、県の獣医師会長になられている先生方が九名おりますので御紹介します。（　）内数字は卒業年

宮城県・鈴木新（19）、山形県・高瀬七郎（21）、新潟県・秋津文雄（19）、三重県・月置正信（18）、和歌山県・前鳴勉（16）、岡山県・松尾昌泰（17）、香川県・名田義昌（15）、熊本県・仲光敬吾（26）、宮崎県・山元敏雄（19）の先生方であります。

今後益々の御活躍を期待します。

久郷　準教授の逝去を悼む

久郷準先生は、去る六月十日呼吸不全のため惜しまれて日本大学病院に入院されましたが、治療の甲斐もなく、同十六日に逝去されました。先生は昭和三十年、日本大学農獣医学部獣医学科を卒業、同年六月東京獣医科大学医動物学教室助手。昭和三十七年六月日本大学農獣医学部専任講師として母校に就任され、助教授を経て、昭和五十八年より実験動物学教授となられ活躍されておられました。先生の研究業績は特に医動物に関する研究、乳質改善に関する研究が目立ちます。先生は学内で色々な委員会委員をなさっていました。

特にこれまで、角笛会の活動が全く休止、空白の状態が続いていたので、ご苦労が多かったと思います。

先生は新潟に乗ずるために事務局長としてご尽力いただきました。そして五十九年度、六十年度と帰道に乗りようやく活動が始まり、これから大いに活躍が期待されていた矣先の事で大変残念なことと思います。享年五十五才。謹んでご冥福をお祈りします。なお、葬儀は六月十九日、金町教会館においてとり行なわれました。

久郷　準教授

東京獣医畜産学会は盛会裡に終わる

さる六月二十三日、午前十時より東京大神宮会館（東京・国電飯田橋下車）において東京獣医畜産学会が開催されました。今回は一般講演二十六題の後、特別セミナーがあり、講演は、一、小動物の口腔疾患の現状と後の対応・林一彦（日大松戸歯学部）、二、免疫療法の基礎について・小出英興（日大獣医放射線学）、三、小動物のコンピューター診断・米倉忠夫（神奈川県獣医）。また「小動物臨床とステロイド」というテーマでシンポジウムが行なわれました。演題は、一、小動物におけるステロイド療法の概要・武石昌敏（日大獣医臨床業績学）、二、イヌにおける医原性クッシング症候群・小宮山典寛（東京都開業）、三、免疫介在疾患に対するステロイド療法・舞塚章良（名古屋市開業）などで、盛大であります。

なお同日、学会の評議員会と総会が開催され新役員が選出されました。

会長＝岡野真臣（日大獣）、副会長＝武石昌敏（日大獣）、川口武志（東京都開業）。理事は十九名で東北北海道地区＝大内賢二・押田等、関東地区＝五十嵐幸男・原田豊造・田中延吉・三原力、東京地区＝松本鼎雄・小林和雄・小宮山典寛（拡充委員会委員長）・倉林恵太郎（財務委員会委員長）、日大地区＝白井弥（編集担当理事）・福田陽一（総務委員会委員長）・吉田仁夫・鈴田章夫、中部地区＝佐々木芳春・山田欽治・舞塚員長、西南地区＝赤岩秘蔵・藤谷道則。監事は二名で、宮田高司（新潟県）・渡部敏（日大）となりました。今後の御活躍を期待します。

六十年度の私立獣医科大学協会総会が本学専門校舎で開催

去る六月五日、六日、昭和六十年度私立獣医科大学協会総会が本学藤沢校舎及び江の島岩本楼に於て行われました。これは私立獣医獣医学教育および研究の発展と振興を図る目的で毎年開かれるもので、今回は本学が当番校となりました。

酪農学部大、北里大、日本獣医畜産大、麻布大の学長、学科主任事務長、教務課長そして本学からは久木田学長、副総長、門田学務担当、大森研究担当、伊藤事務長、岡野学科主任、武石専攻主任、羽山教務課長、福田助教授が参加しました。

議題としては獣医六年制大学院の新設・現行の大学院修士課程の廃止に伴う補助金の削減に対する対策などで、熱心な討議が行われました。なお、藤沢校舎、特に新設の動物舎、臨床実習棟および牧場、広い馬术施設などの見学も含まれ懇会がありました。

学科の動き

この四月より、獣医学科主任は岡野真臣教授が再任、獣医学研究科主任は武石昌敏教授が新任されました。獣医学科の委員、発展のために活躍されておられます。

人事移動

この三月に退職された先生は、小笠原元助手（公衆衛生学・53年卒）、小池奈津子副手（実験動物学・55年卒）、川野多佳子副手（解剖学・日大農化卒）、斎藤里美副手（臨床病理学・北里卒）、花岡信子副手（魚病学・日大畜産卒）の方々です。

これらの先生方の後任として四月から木村麗亜助手（解剖学・55年卒）、鶴川真嘉助手（実験動物学・49年卒）、丸山純一助手（公衆衛生学・57年卒）、高木義助手（臨床病理学・56年卒）、二川智

海外出張

昭和五十九年度の文部省補助により、獣医畜産学部の渡辺健夫助教授が、米国オレゴン州立大学獣医学部に二ヶ月間、出張されました。そして牛のSFD（Shipping Fever Pneumonia）に関する臨床疫学について実験されて、今後の研究、教育に非常に有益となったと語っておられました。

また本年度の海外派遣研究員は、伝染病学の門井喜幸助教授がイタリアに、口蹄疫の調査研究のために二ヶ月間派遣され、この九月中旬に帰国の予定です。

獣医師国家試験について

今年は、獣医教育六年制が施行されて二回目の卒業生を送り出しました。去る三月十四日・十五日に、日大生は学部内大学で受験しました。金曜会校舎目標に模擬試験等を行い、実施し教員と学生が共に頑張りました。結果は、二二八名が受験し、合格者は二二名、九五・三%の合格率でした。因に全国平均は九〇%ですますの成績でした。卒業生の大半は地方公務員として、その他臨床・研究などの関係機関に就職、それぞれ活躍しております。

（白井　弥）

満喜葉会

◇畜産学科◇

満喜葉会創立40周年記念事業計画が決まる

六十年度第四月理事会、五月に開催した理事会、幹事会において、満喜葉会創立四十周年記念事業の実施に関する役員並びに事業計画の大綱が次の通り決議されました。

記念式典の開催の実施は六十二年度春の予定です。

満喜葉会創立四十周年記念事業の内容

一、記念誌の発刊
二、記念式典の開催
三、記念図書の製作
四、記念植樹
五、功労者表彰に対する表彰

記念事業準備委員会の発足は六十年五月十二日（幹事会開催日）に遡られ、記念事業の作業に取り掛かり、すでに数回の会合が開かれています。各担当員は次の通りです。

記念事業準備委員会

委員長　白山獣医会長

総務担当
担当委員長　佐藤　員介
橋　重夫、倉田　裕司、中西　五十、宮原　晃義

記念誌編集担当
担当委員長　渡戸　新平
小内　賢一、斎田　昭、宮川　正和、斎藤　光正、長野　実、井上貞夫、矢沢　舜治、出口晃一郎、青木　俊英、松田孝一郎、大田安則、小吹　秀敏、渋川　均、松本　孝之、斎藤　信行、佐藤　篤兵、小泉　聖一

財務（会計）担当
担当委員長　斎藤　久典
関　泰治、松田　勝、出口晃二郎、石井　達雄、中川　公志、植松　一、杉山　哲雄、深田　利男、塩谷　正勝、鈴木　初江

広報担当
担当委員長　大橋　昭也、斎谷名海（整備）担当
担当委員長　藤井　和興
蔵田　良則、柴水　康人、丹羽美次、増田　哲也、小泉　泰子

記念式典担当（日大会館）
担当委員長　平田　芳弘
秋元　美治、岩間　晴、飛鳥井光治、木村　員司、梅沢　勝正、松瀬　勝幸

「私の体験」を語る大西靖彦先生

どんなご意見でもお気付きの事柄がございましたら満喜葉会発展のためにご連絡頂ければ幸いです。

畜産学科の近況

畜産学科主任大西靖彦先生の後任に長野実教授（三十一年卒）が六十年四月一日付で畜産学科主任に就任されました。また、長野実教授は昭和六十年七月九日付「飼料の生産・価格および消費に関する実態調査」により日本大学から農学博士号が授与されました。畜産学科の主軸として、研究・教育に益々精を出されることが期待されています。

家畜育種学研究室の大西靖彦教授の後任として前農林水産省草地試験場長の坂野健太郎先生が昭和六十年四月一日付で教授として就任されました。

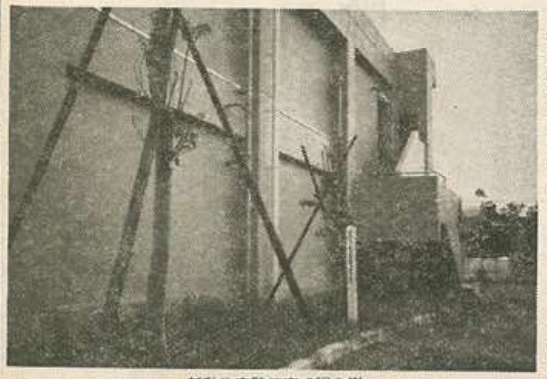
坂野健太郎先生は昭和二十二年東京大学農学部畜産学科のご卒業で動物遺伝学がご専門です。

先生のご活躍が期待されています。

畜産学科の佐藤英雄先生講師（昭和四十年卒）は昭和六十年二月十五日付で「ウサギの体外受精に関する研究」により日本大学から農学博士号が授与され、畜産学科の中堅としてのご活躍が期待されています。

長年に亘ってご教授をとられて来ました教授大西靖彦先生は、昭和五十九年度末をもってめでたく定年退職なさいました。先生は昭和六十年度も非常勤講師として引き続き教壇に立たれておりますが、教授としての最終講義は六十年二月十九日（土）に藤沢校舎本館第一講義室で、進行役の吉田重雄教授によって先生の生い立ち経歴等の紹介から始まりました。

大西先生は、一時間半にわたって「私の体験」と題してご苦労話や感銘深い教訓などを、ご自分の研究室で日夜ご研究されて、最後に人生「つかびては巻に」と言う言葉を忘れないよう申された言葉の一節に耐えない先生のお人柄が伺われ、先生を慕っている方々にほのぼのとした余韻を残した講演でした。先生にはこれからも満喜葉会発展会員としてご参加して頂き、先生をかこむ満喜葉会の楽しい一時を、また



新動物実験棟完成記念樹

よろしくご指導になって頂きたいと思います。

このところ畜産学科は乗々ムードで畜産製造学研究室の増田哲也助手（五十二年卒）は出本剛子さん（五十八年卒）と十一月十八日（日）に華燭の式典をあげられました。「健康管理は愛妻弁当」で規則正しい昼食が取れるようになって幸せ受けっております。また、家畜繁殖学研究室の浜本久等子副手は松本孝之氏（五十八年卒）と六月十五日（土）に挙式されました。今後のお幸せと活躍を期待します。四カップルとも、大西靖彦先生御夫妻によるゴールインでした。

新動物実験棟完成

畜産学科において東京校舎から藤沢校舎へ移転する最大の懸案であった実験動物棟は藤沢校舎九号館として、六月九日（木）午後一時より学部長ほか教任陪、各学科主任、附属施設長らの出席のもとで「鍵引き渡し」式が執り行なわれました。久木田学部長の挨拶に始まり伊藤事務長の工事経過説明、さらに小田中事務局長による「鍵の引き渡し」では、長野実畜産学科主任、岡野真臣獣医学科主任に大きな鍵の模型鍵が手渡されました。獣医・畜産両学科を代表して岡野獣医学科主任より謝辞が述べられました。

九号館は鉄筋コンクリート三階建の実験動物棟と鉄骨造一階建の臨床実験棟、渡り廊下、フロアー等から成る総延べ床面積二千六百五十八・二八平方メートルの建物です。

鍵引き渡し式後直ちに九号館の使用が開始されました。また、畜産学科四年次学生は、その喜びを記念して動物舎の北側に桜の記念植樹しました。

牧場実習の実施について調査した

昭和五十九年度より再会された宿泊の牧場実習について、既に実施した二年次学生を対象に調査が行なわれた。

結果を要約すると、学生諸君は牧場実習をよく理解し、その重要性を十分認識しており、大部分の学生が実習を受講してよかったと感じている。また、良かった点として協同生活と友人関係、家畜との接触、技術の習得をあげている。反面、宿泊施設等に対して不満が強いことが明かとなった。

正・準会員数

昭和六十年三月二十五日卒業式で百五十三名の正会員と、六十年度新入生二百名が加わり正・準会員は九月十日現在次の通りです。

正会員　三、八四三名
準会員　七三三名
（女子一二三名）

（小牧　弘）

いもづる会

◇食品経済学科◇

新副会長に高野氏

実行委員長　小林副会長を選出

六〇年度いもづる会総会及び懇親会が七月六日十蘭日市々谷の日本大学会館で盛大に催された。総会は午後四時伝藤会長の司会ではじまり高坂事務局長によって五九年度のいもづる会の活動状況が報告された。その主な内容は次のとおりである。

①会員数の動き

a正会員数四三五名

新入会員二一五名（第三十九期）

b準会員数九二四名

一年次　二三七名

二年次　二三九名

三年次　二三〇名

四年次　二三八名

新入準会員　二二三名

c特別会員八名（加藤譲教授新任）

d名誉会員一名（山口哲夫先生を推薦）

②秋津・米米・山根三教授の退職記念募金について

事務局長報告

③学部校友会報の発送

第一期から二十四期までの八九二名に対して学部校友会報を学部校友会補助金により発送した。二十五期以降は本年度発送の予定である。

④その他の報告事項

イ、三〇周年記念葉書募集特別会計決算

ロ、四〇周年記念葉書関係特別会計決算報告

これに続いて宮村助教授より五十九年度予算案提出、六〇年度予算案が提示され満場一致で承認された。

総会はこのあと会則一部改正による新しい副会長に高野浩昭氏を選出した。高野氏は四十四年に食品経済学部を卒業、参議院農林水産委員会に勤務されている。高野副会長の加入により副会長は従来の三名制から四名制となった。高野副会長の活躍を期待したい。

議題は四〇周年記念事業委員会の結成に移り、記念事業実行委員長に小林忠夫副会長を満場一致で選出した。小林副会長の紹介は三〇周年記念事業実行委員長として三〇周年以上の成果が期待されている。なお実行委員の選出については小林委員長に一任することも併せて決議された。

引き続き会則一部改正による終身会費徴収に関する議案が提案され承認された。本件については高坂事務局長から急遽に提案している会員数に対して会費収入がけっしては会の運営が困難になってきている昨今の情況が説明され承認された。徴収の具体的な方法や時期についても今年度中にその詳細が検討されることとなった。総会後学部紹介映画「躍動・躍進」が上映され終了後懇親会に移った。

懇親会は佐藤弘一いもづる会長の挨拶にはじまり、山根学科主任、久木田学部長はじめ来賓挨拶が続いた。佐藤会長はいもづる会への校友及び会員各位の日頃の協力に対する御礼が、山根食品経済学科主任はカリキュラム改正、新しい教員採用による一連の人事によって食品経済学科の教育・研究の充実強化が図られている点が強調された。また久木田学部長は農獣医学部の将来のためにバイオテクノロジー関連の応用生物学科を新設し、短期大学部のなかにも新たに環境生活科を設置する意向であること、さらに本年度藤沢校舎の体育館が着工されることなど学部の現状及び将来構想が披露された。会はなごやかな雰囲気のうちに進行し、この間食品経済学科に新任となった加藤譲教授の紹介・山口哲夫先生が名誉会員に推薦されたことなどが報告された。最後に三木敏夫副会長の挨拶によって会を閉じた。

いもづる会新役員

会長　佐藤弘一（再任）

副会長　〃　三木敏夫（再任）

〃　角井　信（再任）

〃　小林忠夫（再任）

〃　高野浩臣（新任）

小林副会長

高野副会長

卒業期別・三教授還暦祝賀贈助者数

卒業期	卒業年次	卒業生	贈助者	卒業期	卒業年次	卒業生	贈助者
1	昭23	11人	3人	21	昭42	62人	2人
2	24	7	0	22	43	60	5
3	25	31	5	23	44	123	5
4	26	22	4	24	45	187	9
5	26	28	3	25	46	237	5
6	27	30	2	26	47	238	3
7	28	37	4	27	48	184	3
8	29	14	4	28	49	196	2
9	30	17	3	29	50	218	4
10	31	18	4	30	51	232	3
11	32	15	5	31	52	270	9
12	33	23	3	32	53	243	3
13	34	29	8	33	54	252	3
14	35	17	6	34	55	245	4
15	36	16	4	35	56	214	4
16	37	25	1	36	57	202	4
17	38	40	7	37	58	215	7
18	39	41	3	38	59	239	30
19	40	54	4	39	60	215	45
20	41	48	3	特別会員その他			14

学科の近況

新カリキュラムと人の動き

六〇年度の学科の動きのなかで特筆すべきことの一つは、六〇年度新一年生より新しいカリキュラムが適用になったことである。新カリキュラムにもとづく専任教員の担当科目は別表のとおりである。

学科名変更（農業経済学科から食品経済学科へ）二〇周年の節目にして今回新しいカリキュラムがスタートしたことは学名変更の意図に便に近づいたものであり、このことは食品経済学科が名実ともに大きく前進する契機になるものと期待される。

新カリキュラムのスタートと時を同じくしてこれまで扶い間経済原論・経済史などの科目を担当されてきた山口哲夫教授が定年退職され、一方、今春東京大学農学部農業経済学科を退官されたばかりの加藤譲教授が新任された。加藤先生はわが国の農業金融の泰斗であり、これまで大学院で農業金融論を講義されてきたが、今後は経済原論とともに新しい学科目の一つである食品産業総論を担当になる。また幾子和枝さんが今春からわが学科の副手として採用されている。新任の御二人の先生の御活躍を期待したい。

加藤譲教授

事務局の伊予軍記助教授は今年三月から約一年の予定でオックスフォード大学農業経済研究所に留学中であり九月下旬頃帰国予定である。なお大学院博士課程在学中の東北成城君もロンドン大学留学中である。（下渡敏治）

事務局から

三教授還暦祝賀贈助御礼

島津先生は一昨年五月、米米先生は昨年九月、山根先生は今年一〇月還暦をお迎えになりました。

一昨年の総会で還暦委員会の設置が決議され、会員の皆様に協賛助の募金をお願いいたしましたところ、二四〇名の方から合計二四一万五千円（八月三十日現在）の御寄付がございました。諸経費及び記念品に八千円を除き、三教授に均分授与致しました。皆様の心あたたまる御芳志に対し、御礼申し上げる次第であります。

尚、還暦委員会のまとめによる卒業期別贈助者数は別表のとおりです。（高坂鉄雄）

食品経済学科教職員

（1985. 4）

	主な担当科目
（学科主任）山根勝次教授	食品経済論（1年）・会計学（3年）・監査論（3年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
米米進水教授	経済学（1年）・経済政策（2年）・食料政策（3年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
島津正教授	経営学（2年）・農業経営学（3年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
鈴木福松教授	農業経済論（1年）・経済史（1年）・食品資源論（2年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
高橋正郎教授	市場論経論（2年）・食品市場論（3年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
加藤譲教授	経済原論Ⅰ・Ⅱ（1・2年）・食品産業経論（2年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
高坂鉄雄教授	調査論（1年）・産業社会学（2年）・農村社会学（3年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
伊予軍記助教授	社会科学方法論（1年）・協同組合論（2年） 中小企業論（3年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
宮村硯之助教授	食生活論（2年）・食品関係法（3年） 食品産業立地論（3年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
水村勝弥専任講師	消費経済論（2年）・情報処理論（3年） 情報処理実習（3・4年）・経営分析論（4年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
上野保雄専任講師	金融論（3年）・農政学（3年）・財政学（4年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
小野田昌彦専任講師	法学（1年）・私法概論（2年）・行政法（3年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
神貫敏治専任講師	食品商品論（2年）・食品流論（2年） 食品産業各論Ⅲ（4年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
下渡敏治専任講師	貿易論（3年）・農場実習（3年） 食品産業各論Ⅰ・Ⅱ（3年） 経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
斎藤武至助手	経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
大矢裕治助手	経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
木島清助手	経済調査実習（2年）・食品経済演習Ⅰ・Ⅱ（3・4年）
山口俊子副手	統計資料室
金子和枝副手	統計資料室
山本淳子	統計資料室
竹下ひづる	統計資料室

林学科分会

◇林学科◇

実験実習棟が完成

苗圃は ノギリ 兵舎跡へ

林学科実習棟と前庭に植栽を行った一年次実習生

十一月かけて、仮設工事、設備工事および植栽工事がすでに行なわれました。移植された樹木は、サザンカ一八九本、ツバキ二九四本、マツ一二二本、その他針葉樹類二五四本、広葉樹類三五二本、中低木類四二二本、合計一、六二三本であります。この新苗圃が苗圃としての役割を十分発揮できるようになるまでには、今後、十年ほどの年月が必要であろうとの細井技手の説明であります。

また旧苗圃内にあった実験・実習林は、林学科実験実習棟として、新しく生まれかわり、旧苗圃はいのこしクヌギの隣りに建設されました。同棟は、本年度四月に学科に引きわたされ、館内には、木材化学実験室、木材物理実験室、森林学実験室、森林生物学実験室、測量学実験室、男子・女子更衣室、調査事務室等にわかれ、学生達の実験・実習に供せられています。

藤沢校舎にとられましたおりには、ぜひおたちより下さい。

四期卒の真砂氏

朝日森林文化賞を受賞

林学科第四期卒業の真砂典氏（和歌山県熊神社）が朝日新聞社・朝日森林文化協会主催の第三回朝日森林文化賞森づくり奨励賞を受賞されました。受賞テーマは「林業の組織に尽力し経営安定を推進」で、同氏は、「地域林業の発展なくしては、個人林業の発展もあり得ない」との考えから昭和四四年、若手経営者を中心に林業懇話会を発足させ、翌年、村役場、県の出先機関、森林組合等による林業の組織化、発展のために尽力されたことに対する受賞であります。なお同賞は六団体、個人五三人、計一二三件の中から選出され、受賞されたものであります。

同氏の名誉ある受賞に対し、校友会々員、心からのお祝いと、今後益々の御活躍をお祈り申しあげます。

学科の動向

今回は学科における野外での実験実習を中心にお知らせします。

一年次においては、本年、林学実習の一環として、以下の三つの学外実習が、山田教授、本江助教授の指導のもとで実施されました。①多摩動物公園における森林動物と林業について（五月十日、十七日、二十四日、三十一日の四回実施）。②新木場・東京港における木材ハイテク利用および緑地造成等について（六月五日、十二日、十九日、二十六日の4回実施）。③農林水産省林業試験場見学（これは今秋に予定されています）。

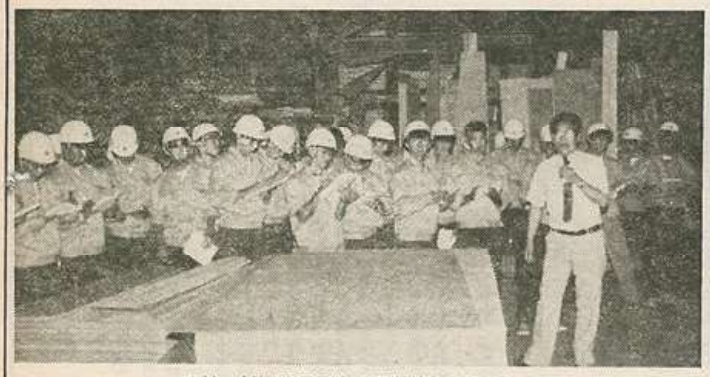
なお、これらの学外実習は多くの校友の御協力を得て実施することができ、特に、新木場の見学にも、活発に活動しております。

四年次では、卒業研究のため、それぞれ藤沢、本十国実習林を中心とし、各地に出向いて調査しております。

なお、本年度は、林学実習の一環として、以下の三つの学外実習が、山田教授、本江助教授の指導のもとで実施されました。①多摩動物公園における森林動物と林業について（五月十日、十七日、二十四日、三十一日の四回実施）。②新木場・東京港における木材ハイテク利用および緑地造成等について（六月五日、十二日、十九日、二十六日の4回実施）。③農林水産省林業試験場見学（これは今秋に予定されています）。

なお、これらの学外実習は多くの校友の御協力を得て実施することができ、特に、新木場の見学にも、活発に活動しております。

四年次では、卒業研究のため、それぞれ藤沢、本十国実習林を中心とし、各地に出向いて調査しております。



木材ハイテク利用見学・講師は校友の松本氏

事務局より

林学科校友会の総会については、本年のうちに開催することを検討しましたが、来年が第一期生の卒業から数えて度二十五年に当たりますので、昭和六十一年の良い日を選んで、三十五周年記念として開催したいと思っております。この記念総会の細目が決まり次第皆様に御知らせいたしますが、是非それを成功させるべく校友諸氏の御協力を切望致します。

その記念総会に合わせて校友会名簿を発行出来るよう、事務局では原稿の作成に力を注いでおりますが、何分にも不慣れが多く、思うように捗っておりません。そこで、再度お願いしたいのですが、同期の方や先輩・後輩で御存知の方々の住所・勤務先等を事務局または同期の幹事宛一報頂きたくお願いします。

校友諸氏の御活躍を祈ります。（石川巡朗）

パース測量実習が実施され、測量技術修得のため教員共々汗を流し頑張っております。

二年次では、今秋、本十国実習林で林木育種学実験（山岡教授、本江助教授）が予定されています。

三年次では、造林学実習（山岡教授、本江助教授）が春季四月二十日～五月一日、夏季七月二十三日～七月二十七日の2回、測量学・測樹学実習（佐々木助教授、塩沢教授講師）が七月二十八日～八月五日に、さらに森林生産学実習（山岡教授）が九月九日～十三日に、それぞれ本十国実習林で実施されました。砂防工学実習（石川教授講師）は例年通り尾崎山の山腹緑化工事の現地見学会を予定しております。ほかにも、各コース（森林生産、林業経営、緑地保全、木材工学、森林工学）毎に、専門分野別の見学会等を予定しており、特に三年次では、学内学外とも、活発に活動しております。

実習林長交替

昨年四月より梅田三郎助教授にかわり、片岡寛純教授が演習林長に任命されました。今後の御活躍を期待します。

桜水会

◇水産学科◇

今年の夏も暑い日が続きました。日中三〇度を超す日を真夏日、二五度以上の夜を熱帯夜と呼ぶそうですが、因なからにしても日に日に力なく気分を味わうにつれては、長野の病院や日航機の墜落等いたましい出来事がつづきました。

さて、農獣医学部校友会水産学科分会（通称桜水会）の現状について報告致します。

総会・懇親会

昭和五九年度総会および懇親会が六〇年五月一八日、御茶ノ水スタ！！軒茶屋亭で開催されました。総会では、昭和五九年度に桜水会が行った事業および決算、昭和六〇年度の事業計画および予算等について、総会に先立ってなされた代議員会の決定事項が報告されました。桜水会の予算規模は毎年二〇〇万円程度となっておりますが、六〇年度は四〇〇万円と倍増しております。これは、終身会費の利息から別途に名簿作成積立金を行っていたところ、六〇年度に名簿の名簿を作成することとなり、その積立金を通常予算に算入したためであります。

総会にひきつづき、農獣医学部校友会会長佐藤弘一氏をはじめ各分科会代表、水産学科の教授の先生方を招待しての懇親会が開催されました。総会・懇親会に出席していつも思う事ですが、毎年きまった顔ぶれがそろうだけで、平均年齢が年々確実に一才づつ高くなっているとです。校友会の活性化を図るためにも若い卒業生の参加の望致しております。

桜水会々員数

日本大学農獣医学部水産学科を卒業すると、自動的に桜水会々員となりますが、六〇年三月二三日現在その数が四一五九名に達しました。この中にはすでに物故した人られた方もおりますが、事務局からの連絡が宛先不明として一〇〇通近くも返送されてきます。今年度は名簿が作成されます。従来にも増して内容のある名簿を作ってもらうために、より確実な住所変更のあった方は事務局あるいは水産学科の教員まで御一報願います。

☆水産学科の昨今

昇格

昭和六〇年四月一日付で、水産学科教員のうち、四ッ宮博先生（情報処理論）が助教授に、会津和征先生（微生物学）、朝比奈潔先生（水産動物生理学）が専任講師にそれぞれ昇格致しました。

学位授与

安斉寛助手（水産生物化学研究室）が「タウリンミガイのセルフ一セ（胃潰瘍セルフ一セ）精製と生理的意義」に関する研究によって博士の学位を授与されました。

トピックス

日比谷京教授が日本学術会議第六部会員に選出されました。学術会議は、日本の学術研究行政のかじ取りをする重要な責務を負う機関で、先生には御自身の研究、学生の教育指導の外に日本における農学系研究の方向づけをする役割がまわってきたわけで、大変御苦労な事とは思いますが、高い次元での御活躍を祈願し致します。

海外出張・帰国

西出英一教授が八月三日から八月二三日まで国際海藻学会に出席のためデンマークへ、また八月二六日から九月一五日まで、太田海外交流基金によりブラジルに出張されました。

吉原育郎専任講師は八月一九日から九月一七日まで、チリ・ノルテ大学水産学部の調査を受けて、同学部において、沿岸漁業資源の利用および増殖法についての講演および、チリに対する資源研究事情視察のため出張されました。

また日本大学海外派遣研究員として二年間イギリスのリ・リサーチステーションに留学していた胃馬助教授が八月二六日に来朝します。今後ともなんらかの形でこのつながりを保つようにして参きたいものです。

臨海実験所近況

静岡県下田市に臨海実験所が開設されてから一〇年余りたちますが、本年臨海実験所長を勤めておりました日比谷京教授にかわって、本年四月一日より東禎三教授（二期卒）が所長に就任致しました。

今見もまた臨海実験所における学生実験が七月一八日からの海洋学実験を皮切りに示唆富伝・育種学実験、農業学実験と相次いで実施され、好天に恵まれて、各実験の担当教員や受講学生それぞれ真摯になって帰ってまいりました。

恒例となりました海洋生物および プランクトン講習会も二回を数え、今年も八月二六日から九月日まで、中学・高校の先生方二七名が参加して実施されました。また、中学校・理科を担当している先生方の要望で、八月三日に東禎三所長、広海十朗専任講師が参加して、他方の小・中学校から選出された二三名の先生方にプランクトンの採集法、同定法等について講習をおこないました。他元の小学校や中学・高校の先生方との交流を深め、その先生方の教育指導の便宜を図る事は、臨海実験所の機能の一部であるとも考えられます。今後ともなんらかの形でこのつながりを保つようにして参きたいものです。

留学生の情報

水産学科では学科創立以来十数名の留学生を受け入れております。それらの留学生の出身地はタイ、インドネシア、シンガポール、ベトナム、台湾、韓国などを主に東南アジアの国々が主体となっております。彼等は卒業と同時に帰国する者、大学院に進学、修了してから帰国する者さらに他の国へ移る者あるいはそのまま日本にとどまる者等々卒業後の進路はまちまちですが、多くの場合、卒業後連絡がとれないというのが現状です。かつてある先生がタイ国に出張される時、同期生であった留学生へ在学当時の住所を教務課の倉庫からひっぱり出して、手紙を出したところ、わざわざ亦庵まで出迎えに来てくれ、しかも政府の高官になっていたという話を聞いた事があります。

機会があればかつての教え子である留学生を訪ねる事は国際親善にも役立つことになります。

ここで今まで不明であった二人の留学生の消息がひょんな事からわかったという例をあげてみます。昭和三〇年代にインドネシアから婚約留学生として多くの青年が日本の大学に留学してきました。本学水産学科に昭和三六年に二名のインドネシアの青年が入学しました。ハディ・ジャワスとジョージM・ヨリスです。ハディ・ジャワスはジョージM・ヨリスの義兄弟を、ジョージM・ヨリスは義兄弟を頼ってしかし昭和四〇年三月卒業、第一四期生となりました。彼等はそれぞれ婚約者を残して帰国しました。その後の消息が途絶えていたところ、今年の五月、当時の留学生二五周年を記念して当時の留学生とその家族が大挙して来日し、当時御世話になった先生方を訪んで晩餐会を開きたいという事で、当時から在職していた浜田教授と岡崎助教授であるという事で青葉荘専任講師が出席しました。そして、そこでハディ・ジャワスと二〇年振りに再会致しました。ハディ・ジャワス氏は海洋国公務員であり、現在では水産会社をはじめいくつかの会社を経営する実業家に、またジョージM・ヨリス氏は五月から東ジャワ州の水産研究所々長に就任したとの事です。

今後、インドネシアと日本関係者が来る時はいろいろ便宜を図りたいとの事です。（吉原育郎）

ハディ・ジャワスと20年ぶりの再会

チリ桜水会（ネ）開催

海外で活躍している卒業生も多くなっておりますが、時々会いたくなったというニュースを二つ。

九月七日、国際協力事業団より派遣され、ノルテ大学ビエテガイ等の増養殖の指導をしているボ屋静夫氏（二期卒）、同じくサケ・マス放流事業を指導している中沢昭夫氏（一四期卒）、増養殖施設のプラント輸出のため日本伯の技研工商の小熊信夫氏（二八期卒）およびチリ各地を巡回診療して貧困サンチャゴに戻った吉原育郎専任講師（一四期卒）が期せずして同じホテルに投宿しての会合でした。二次会、三次会と飲み方まで懇親会はつづきましたが、赤星・中沢両氏とも後輩が皆々のあとにつづいて海外で活躍してほしい、そのための協力は惜しまないと語っておりました。（吉原育郎）

工学会

◇農業工学科◇

会員の皆様におかれましては、ますます御清会の事と推察致し、心からお慶び申し上げます。

工学会役員改選

昭和六十六年六月二十一日、工学会理事会および役員会が東京校舎第四会議室にて行なわれた。

昭和五十年度決算報告、昭和六十年度予算が満場一致で可決された後、第七期役員任期等とに伴なう、役員新旧が行われ、新たに第八期工学会役員が選出された。

新役員は次の通りです。大部分の方が留任された。

会長・理事　一川宏也（二期）
副会長・理事　吉川宏一（三期）
〃　〃　村田昇（三期）
会計担当理事　前畑伸光（八期）
業務担当理事　大川武夫（十二期）
庶務担当理事　青木正雄（九期）
〃　八木茂（一期）
理事　図師誠一（八期）
〃　粕谷久義（二期）
〃　田中健夫（七期）
理事　戸崎紘一（二期）
理事　斎藤公三（八期）
理事　酒川昭男（十期）
理事　石川重雄（十四期）
理事　五川雅仁（十七期）
監査　図師誠一（八期）
〃　粕谷久義（二期）
〃　田中健夫（七期）

なお、会員数増加による会の運営に支障が生じないようにするため、理事の定員増が検討されることになった。また、名簿整理、四年次学生との懇親会を昨年同様、進める事となった。

準会員との懇親会

OBはよき相談相手に

昭和六十年三月二日、午後四時より藤沢校舎新食堂3Fで、準会員（四年生）と会員との懇親をはかるための懇親会が開催された。

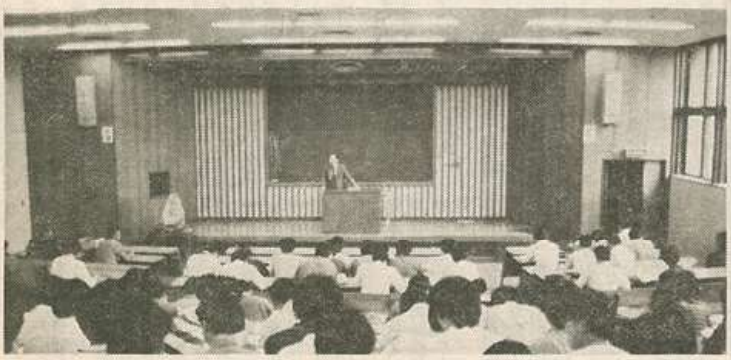
多数のOBが参加され、四年生の悩みに対し、良き相談相手となっている光景が会場のあちこちで見受けられた。各期OBの紹介もあり、盛況のうちに閉会となった。

準会員（4年生）との懇親会

就職懇談会も開催

昭和六十年六月十五日（土）、午後三時より、四年生を対象とした就職懇談会が本館第一講義室で開催された。

講師として、一期の木村光明（池田建設）、佐々木綱治（清水建設）の二氏が十二名の就職について、舟橋紀（石川島播磨機械）が機械業の就職について講演された。



就職懇談会

◇学科内状況◇

一年生の研修会開催

四年生の就職懇談会があった同日同時刻、本館第一講義室で一年生を対象とした研修会が開催された。

この研修会は、入学まもない時期に起こりやすい戸惑いや悩みを解消するために行なわれたものである。土木系を白岩助教授、建築系を青木（志）教授、機械系を木村教授が代表して講演された。

研修会終了後、一年生は就職懇談会を終えた校友OB、四年生と一緒に新食堂3Fでの懇親会に参加、学生、年齢を超えた談話をもった。

今後も、このような会を開催していくと定です。

◇人事◇

拓殖副手が本年3月をもって退職されました。

永い間、御苦労様でした。今後の御活躍を期待しています。

◇事務局より◇

会員名簿の整理は、先述のように役員改選後も続行することになっております。お手数でも、勤務先、現住所の変更が生じました時には、事務局まで御一報下さいますようお願い申し上げます。

また、就職活動等で、諸先輩方の職場に学生方が訪問するような折りがございましたら、よろしくお願い申し上げます。

なお、一年生：二四九名、二年生：一七九名、三年生：一六二名、四年生：二三六名、大学院生：三名が在籍し、本会員は七二九名であります。これに対し、正会員は本年三月卒業した二三八名を含め三〇五人名となりました。（川西博文）

本年四月より、瀬戸彰子副手、田上もと子副手が着任しました。

瀬戸副手は本年三月、当学部畜産学科を、田上副手は農業工学科を卒業された方々です。今後とも学科のために頑張られることを願っています。

主任教授は四月より田原教授から林教授へとバトンタッチされました。

海外派遣研究員（中期）として「農業土木移入に関する研究」で、タイ、インドネシア三国に昨年三月より滞航されていた河野助教授が昨年九月帰国されました。また、本年七月末より三週間ほど、「大型圃場のカンガイに関する研究」で白岩助教授が海外出張（文部援助金援助）されました。

食品工学会

◇食品工学科◇

より強い繋がりを
＝20周年記念式典を終えて＝

食品工学科　野田　義人

この度、校友諸様のご協力により校友会二千周年式典が大盛会のうちに終了する事が出来ました。参列いただいた来賓の方々を始め、長い間この日の準備に協力いただいた校友並び先生諸氏に、心より感謝致します。

当日は、広い会場を埋った校友の方々で一杯になり、その内には、卒業以来初めて再会する顔もたくさん見受けられ、懐かしく楽しく時を過ごされた方も多かった思いです。同じ学舎で学んだ卒業生が多数集まる程、懐かしさの有難さをしみじみ感じていました。ところで、二千周年記念式典の開催にあたっては、二千周年記念事業委員会を設けて、多数の方々に委員として参加して頂きました事は、ご承知と思います。そこで、これを初に校友会では、前述の事業委員会を母体として、校友のためにさらに活動を続けて行く事を決しました。現在でもいろいろアイデアが出ています。その内の一つで、今年中にも実行に移したいと思っています。私自身、社会に出てからは、卒業生同士の繋がりは、これまであまり接触のなかった層、例（在校生）との交流であります。「卒業して始めて校友と会った。」と言うのではいけない事と思います。その他、いくつかの計画もありますが、とに角、一人でも多くの方が事業委員会に参加されるようお願い致します。

我々食品工学会々員は、直接間接的に食品界に関与している方がほとんどなのであろうと思います。私自身、産学中には食品業界がこれほどの巨大産業に成長するとは夢にも考えていませんでした。しかし反面、今回のワイン業界におけるジェチレングリコール混入事件を始め、多くの不祥事が起きた事も事実です。我々食品業界にたずさわる者は、社会に生活する人々の生命と健康に直接かかわりあっている訳ですから、その責任も大変に重大であると思います。そういう意味でも、校友会での連帯を強くし、互に情報を交換しあえる場を作りましょう。今後、会員が増えて校友会も強固になって行く事と思いますが、益々のご協力をお願い致します。

終りにあたり、校友会々員諸様の社会的参与並び、貢献度がさらに拡大することを念じてやみません。

食品工学会設立20周年記念式典での記念写真

華やかに20周年記念式典を開催

総会では新会長に野田義人氏選出

祝賀会で旧交を温める

昭和五十九年度の総会と食品工学会設立二千周年の記念式典が、昭和五十九年十月十二日、日大学会館にて開催されました。

総会では、新役員の承認が審議され、野田義人氏（一期生）が新会長として選出されました。また中村満一前会長は、新副会長に七ヶ浜氏、専務理事兼会計に鈴木公一助手と食品分析学研究室の千野誠助手が、それぞれ専任理事に昇格されました。

海外出張関係では、春田三佐夫教授が、海外薬品研究員（短期B）として、本年八月、欧州諸国に出張されました。また、露木英男教授は、本年三月、国際地球研究促進のため、インドネシア、フィリピン、台湾の三カ国を訪問されました。

★事務局から

昭和五十八年度の決算報告と五十九年度の予算案につきましては総会にて承認が得られましたので、今回は、説明をさせていただきました。

（千野　誠）

記念式典並び祝賀会は、来賓、校友を含め二百人以上の出席のもと、華やかに執り行われました。野田新会長の開会の挨拶に続き、丸尾文・海洋部次長のご祝辞をいただきました。豆腐信一先生による乾杯の後祝賀会に移り、福引などのアトラクションで祝賀も大いに盛り上がり、会場のあちこちでなごやかな談笑が見受けられました。

★学科内の動向

本年四月、食品理化学研究室の露木英男教授が、食品工学科主任に任命されました。学科の発展のために益々のご活躍を期待致します。

食品製造工学研究室の鈴木公一助手と食品分析学研究室の千野誠助手が、それぞれ専任講師に昇格されました。

★学科の卒業生に記念品を贈る★

今年も一百名近い新卒業生を会員として迎えました。例年により会から学位にはベルト、女性にはデジタルつき高級ボールペンを贈りました。三月二十五日、卒業証書授与式後の謝恩会には出川会長が出席し、総幹とともに校友としての自覚持ち、社会人としての活躍されることを強く望みました。

★新卒業生の歓迎会★

今年も、例年通りの歓迎会を開催しました。

★新任教職員★

本年九月より、拓植第一研究室に井上嘉丸教授をお迎えいたしました。井上教授は大正十一年生まれ、東京大学を卒業後農林省になり、四月より副手として迎えました。所属は拓植第一研究室ですが、コンピュータ表現、環境農学実験の補佐等もお願いしています。これからのご健康と活躍を祈ります。

★学生の海外交流★

恒例のゼミナール夏期研修では英語ゼミがマレーシア・シンガポールへ、国際経済ゼミ、国際金融ゼミが台湾で中国での海外研修を行ないました。特に中国での研修は初めての試みであり、その成果が期待されます。

事務局から

★拓友会会報11号の原稿を募集中です。会員各位の積極的な投稿を願います。テーマは何でもかまいません。概14字でお願いします。長さは問いません。郵便葉書あれば出かけてください。

★名簿を整理中です。お知らせ願の方々での学歴校友会等の所かないの方からいらっしゃいましたら若干数ですがご一報下さい。

会員各位の御活躍を祈り申し上げます。

（井上嘉也）

第2期卒業生有志一同

拓友会

◇拓植学科◇

60年度総会と懇親会

日大会館で盛大に開催

拓友会60年度総会

校友会の昭和六十年度総会・懇親会は、去る六月二十一日（金曜日）日本大学会館で開催された。四時からの総会では、会長挨拶に続いて議長に会を譲り、議題の審議に入った。先ず井上事務局長より五十九年度活動報告と決算報告が説明され、審議の結果それぞれ承認された。続いて六十年度活動計画、予算案が説明された。特に、会員の年々の増大に伴なう諸連絡や会報発送の為の事務量の増大を考慮し、また不明者の住所を出来るかぎり明らかにする為に、コンピューターによる名簿の整理が新しく計画され、その為の予算が承認された。六十年十一月をめどにひとりひとりの打ち込み作業を終え、その後会員各位に不明者調べの依頼をしたい。その際にはお手数ながら御協力をお願いします。以上のような議案が慎重審議の上可決され、新しい年度の一歩が踏み出された。

続いて五時より懇親会に入った。田川会長の挨拶に続き、佐藤弘一農獣医学部校友会会長よりお祝いの言葉をいただいた。次に最辺秀俊元農獣医学部長の音頭により乾杯、懇談に入った。当日は校友五十余名をはじめ多数の御来賓の方々の御臨席を仰ぎ、たいへん盛会であった。懇談の途中ではあったが、非常に御多用のところ駆けつけていただいた古屋文治農獣医学部次長、宮崎宏和植物学科教授にそれぞれ挨拶、学科の現況を交えつつ祝辞をいただき、最後に近藤剛会長の閉会の挨拶により、千秋に時つつがなく懇親会を終了した。

★岡田副会長、★

★日本大学協議員選出さる★

本会副会長岡田正男氏は、日本大学寄付行為に基づく校友協議員に推薦されました。拓友会としても大変名誉なことであり、これから日本大学発展のために益々御尽力されることを願ってやみません。

★拓友会会報第10号発行★

三月に会報第10号を発行しました。このようやく毎年春の発行が軌道に乗ってきました。今回は韓国・台湾校友からの投稿を特集しました。

★名誉クラス会開活発に★

二期のクラス会が去る五月十五日（水）、サンメンバーズ新宿にて相り込みで開かれました。当日は事務局より幹方局員が出向き、お祝いを申し上げました。遠くは山形からお見えの方もおり、十四名が出席、大いに旧交を暖ためました。またその席、多数の校友の住所が判明いたしました。御礼申し上げます。

また昨年九月は拓植ゼミOB会十月に園芸ゼミOB会、十二月に四十年卒業生有志会がそれぞれ開かれています。今後ますます活発に開かれることと思いますが、その際にはあらかじめ事務局に御一報下されば幸いです。

★恩源浩先生御退職★

恩源浩先生は本年四月に満六十五歳の誕生日を向えられ、退職されました。先生は昭和五十年四月、本学科に着任、以来十年余にわたってインドネシア語を教えられました。特に実地訓練したインドネシア語の授業、ゼミナールは活気にあふれ、また就職についての先生の御世話になった学生も多数おります。先生の益々の御健康と御活躍を願ってやみません。

★新任教職員★

本年九月より、拓植第一研究室に井上嘉丸教授をお迎えいたしました。井上教授は大正十一年生まれ、東京大学を卒業後農林省になり、四月より副手として迎えました。所属は拓植第一研究室ですが、コンピュータ表現、環境農学実験の補佐等もお願いしています。これからのご健康と活躍を祈ります。

拓植学科の動向

昨年九月から今年八月までの拓植学科の動向をお知らせします。

★海外研修★

英語ゼミがマレーシア・シンガポールへ、国際経済ゼミ、国際金融ゼミが台湾で中国での海外研修を行ないました。特に中国での研修は初めての試みであり、その成果が期待されます。

合同研修での中国の旅行風景

むつあい会

◇短期大学部農業科◇

新会長に富沢寿樹氏

会則改正し理事会を設置

昭和60年度むつあい会総会参加者一同

短大農業科校友の皆さんお元気ですか。猛暑の夏も終りいつしかさわやかな秋を迎える季節となりました。ご健勝にてご活躍のことと存じます。

先ずむつあい会の近況からお知らせします。昭和六十年度第一回の役員会は二月二日（土）横浜市関内の横浜市教職員保養所浜富荘において開催し、役員多数出席のもとに総会提出事案について熱心に検討されました。昭和六十年度の総会は三月十六日（土）藤沢校舎本館第一会議室において開催され、先ず議長に富沢寿樹氏（四期）を選出し、昭和五十九年度の事業報告並びに決算報告、六十年度事業計画案並びに予算案、新卒業生への記念品贈呈に関する件、会則改正案に関する件、役員改選に関する件などについて審議し承認されました。従来役員会は各期別の幹事により構成しておりましたが、卒業生の増加に伴い幹事の数も相当数になり、連絡その他運営上支障も生じてきたので、新たに幹事の中より理事を選出し理事会を設置することに会則を改正しました。

懇親会は総会終了後藤沢校舎第二食堂において開催され、遠くは大分から楽屋氏（四期）、山形より大場氏（七期）の参加をはじめ会員多数参加のもと和やかな雰囲気の中で行われ、一年一回の旧交を温めるよい機会となりました。お互に健闘を祈りながら再会を約して散会しました。

四月六日第二回の役員会を藤沢校舎において開催し、新会則に従って役員改選について審議した結果、新会長に富沢寿樹氏（四期）、同副会長に山本正義氏（六期）、同じく楠元 守氏（六期）、監事には楠橋俊治氏（八期）、鈴木 卓氏（八期）をそれぞれ選出致しました。田村前会長には三期六年間にわたってむつあい会の運営に並々ならぬ努力をされました。また川崎前副会長には多忙にもかかわらず会長を補佐し会の運営にご協力頂き、お二人に対し心より感謝申し上げます。また、次の方々が理事に選出されました。（敬称略）

富沢寿樹、田村信雄、鈴木明夫、山本正義、楠元 守、宮崎利明、藤山悟弘、四元哲朗、鈴木勝義、楠橋俊治、鈴木 卓、江島秀巡、山崎 博、滝沢 章、柳下治郎、吉川 誠、丸山 学、佐藤正民、事務局斉藤忠雄、米田京夫、堀内一矢、宏長 正以上です。

むつあい会も発足してより十周年となり、これを記念して十月十二日（土）午後二時より藤沢校舎において中田正一先生の講演会と記念祝賀会を開催することになっております。祝賀会ではむつあい会の発展にご協力頂いた前会長の田村信雄氏、前事務局長鈴木明夫氏、前監事の鈴木勝義氏に感謝状と記念品を贈呈することになりました。会員多数のご参加を期待しております。

六期の日向 道氏（山梨県総合農業試験場勤務）は長い間ブドウ園の土壌について研究をつづけてこられ、ブドウ園の土壌中の銅含量がボルドー液使用のため年々増加しブドウ樹に影響が出始めている実態を明らかにしその防止策についても指針を示しました。本年七月「ブドウの銅過剰障害に関する研究」に対し日本大学より農学博士の学位が授与されました。短大からは昨年の楠元氏に次いで二人目となり、校友として心から祝意を表し今後とも一層のご活躍を祈念致します。

農業科の近況

昨年の会報でもお知らせしましたが、農業科はこれまでの園芸及び緑地造園の二コースに六十年度より女子の教育コースとして新たに生活環境コースを新設しました。二コースに共通した新学科名にしようとする考えもありましたが、校友会としては長年親しんできた農業科の名称存続に対する意向がつよく、名称変更には慎重な態度で臨むことを希望してまいりました。

六十二年度より生活環境コースは生活環境科に独立し農業科と二本立で進む方向で検討されております。

農業科では去る三月には一三〇名の卒業生を社会に送りましたが四月には一七一名の新入生を迎え二年次学生一五三名と合せ三二四名の学生が在籍しており、園芸コース、一五七名（一年次七二名、二年次八五名）、緑地造園コース一一八名（一年次五〇名、二年次六八名）、生活環境コース、四九名（一年次のみ）。学生はそれぞれのコースに分れて勉学に励んでおります。

農業科の教職員の移動についてお知らせします。緑地造園コースの発足当時から学生の指導に尽力されました専任講師の阿部邦夫先生は三月で退職され財団法人都市緑化基金にご転出になりました（住所は三四四—〇一埼玉県北葛飾郡庄和町米島二六一—一二）。また女子学生から親しまれておりました副手の佐々木ひろみさんも三月で退職されました。

つぎに生活環境コースの新任教員として大川いずみ専任講師が着任されました。大川先生は東京大学大学院出身の理学博士、食品化学その他を担当されます。また新任の副手として登玉由起子さんと長谷川瑠美さんのお二人がこられ、二人とも本学農芸化学科の出身で学生実験のお手伝いをして下さることになっています。

農業科の研究室の構成については昨年お知らせしましたが、今年も変り次のようになりました。

園芸第一研究室　鈴木基夫教授、寺沢 誠専任講師、渡辺慶一専任講師（五号館二階）

園芸第二研究室　斉藤忠雄助教授（五号館二階）

緑地造園研究室　池田二郎教授、青山友都専任講師、島田正文専任講師（五号館三階）

短大第一準備室　長谷川瑠美副手（五号館二階）

生活環境第一研究室　大川いずみ専任講師（四号館二階）

生活環境第二研究室　飯塚 統助教授（四号館二階）

短大第二準備室　登玉由起子副手（四号館二階）

教養第一研究室　佐藤昌介教授、浅野紘臣専任講師（四号館二階）

教養第二研究室　二瓶俊邦教授（五号館二階）

卒業生の就職と進路

短期大学農業科の卒業生の動向を見ますとこれまで農業を自営している者三〇％、公務員、農業団体に勤務し農林行政や技術指導教育に当っている者三〇％その他青果物流通関係などを含めて卒業生の六〇％が農業関連産業に従事しており校友の大きな特色となっております。本年三月に一三〇名の卒業生の中で就職した者二八名（二一％）ですが六〇％以上が農協など農業関係です。自営四四名（三四％）、学部進学三四名（二六％）専門学校六名（五％）、海外研修一名その他で昨年同様進学者が多いのが特徴的ですが、自営するものも多くその大部分は千葉神奈川をはじめ関東、甲信越、東海地方の農業後継者となっております。

事務局からのご連絡

一、住所、氏名、勤務先を変更された方はお知らせ下さい。むつあい会では今後の名簿作成の資料にしたいと考えておりますので変更になった場合はお手数でも事務局までご一報下さい。

二、終身会費を納入して下さい。むつあい会では会員のご協力により会員名簿及び会報の発行を行い会員の皆様にお届けしてまいりました。これには多額の経費を必要とし、会の運営上諸般の情勢から五十九年三月の卒業生より終身会費を壱万円に増額させて納入して頂きました。つきましては終身会費の未納になっている方（昭和五十九年三月以降卒業の方は壱万円、五十八年以前の方は五千円）は左記口座に振り込み下さい。

銀行口座、三菱銀行藤沢支店、二五七—四三三九三八一　日本大学短期大学部農業科校友会代表斉藤忠雄。または郵便振替口座横浜　〇—七七〇四九　藤沢市亀井野一八六六　日本大学農獣医学部藤沢校舎むつあい会宛お願いします。

最後に校友各位のご健康とご発展をお祈り致します。

（斉藤忠雄）

意欲的な青年部活動

大阪支部　秋に懇親旅行を予定

農獣医学部校友会の会報発刊のお知らせをうけ、一年の歳月の流れの速さに、今更ながら驚いている次第ですが、大阪支部の近況を簡単に報告させていただきます。

本年度の総会は去る六月一日、昨年と同じ場所で東京からは久木田学部長、佐藤校友会々長、長野主任の出席を仰ぎ、さらに大阪校友会からは野々村会長ほか役員数名の出席をいただいて開催した。本年度の総会も例年のそれと特に異なったものではなかったが、あえて特筆するとすれば次の如き点であろう。

その第一点は青年部が「日大研親会」という名の会を結成して出席会員を増やすべく、本腰を入れて活動を始めたことを報告したことである。いずこの支部においても名簿の人数は多くても、行事への出席者の多くないことに頭を悩ましていることと思う。われわれの支部でも、その対策の一つの方法として青年部に期待しているわけであるが、その青年部が今後意欲的に活動して、支部の発展に貢献してくれることになったものである。

第二点は、かねてから話にのぼっていたことであるが、支部名簿の作成である。この件については前々から資料集めは事務局を中心に行ってはいるが、まだ印刷の段階には至っていないもので、本年度も引きつづき、この作業は行ってゆくことになっている。従って、そう遠くない時期に出来上る予定である。

最後に本年度の行事であるが、これもおおむね前年度に準じて実施するので、ここに掲げることは割愛するが、最近実施済みの目ぼしい行事は世界一といわれるP・L花火大会見学、支部ゴルフ・コンペなどである。また秋には一泊ないし二泊の懇親旅行も予定している。このように大阪支部では各種の行事を通して懇親を深め、併せて出席会員の増加をはかってゆこうと努めているのが実情である。

（東 照雄）

日本大学校友会神奈川県支部

農獣医部会の総会

横浜華正楼本館で

校友の皆様お元気ですか、九月に入りますと本会の総会準備で事務局は大忙しの状態です。農学科の学生の応援を得て、総会案内状の発送はほぼ終わりました。残りは各学科、校友有志、会社などにお願いして発送していただきます。

神奈川県下には、農獣医学部卒業の校友が約三〇〇〇名おりますが、事務局で連絡のとれる校友は約一三〇〇名です。すべての校友と連絡をとりたいのですが、返信未到着が多く、全体の五分の一ぐらいの校友と連絡が取れている状態です。一人でも多くの校友を知いて下さい。

農獣医部会は、昭和五十三年秋に発足致しました。年会費を徴収しないような会は初めは集りが良いが二、三年もすれば消えてしまうだろうと云われておりました。しかし会員の努力と協力により今年で第八回の総会を左記により開催できるはこびとなりました。

今年も例年と同様に、数多くの校友が参加されて、総会のあとの懇親会では、美味な中華料理に舌鼓を打ち、美人コンパニオンのお酌で古き良き仲間と酒を酌み交わし、秋の一夜を楽しく語り合い、懐かしい「紫陵逍遥歌」を肩を組み歌いつつ過ごそうではありませんか。皆さん是非御出席下さい。

今年の総会案内状には紹介頂ける友人欄を作りました。事務局で連絡が取れていない校友がおりますので御記入の上御返信下さい。

記

一、日時　十月五日（土）
総会十七時より
懇親会十八時より

一、会場　横浜中華街
「華正楼本館」
電話〇四五—六八一—二九一八

一、会費　八、〇〇〇円

（佐々木弘康）

活発な校友の活躍

山梨県支部　11月に総会開催予定

今年は二月～四月そして更に六月～七月の長雨により山梨の農業の重要部分をになう桃、すもも、各種野菜類は大打撃を受けてしまいました。県内在住校友の何割かは直接農業を営み、あるいは農協等で直接果樹の出荷等にたずさわっているだけにこのことは本当に大変なことだったと思います。

こうした状況下長雨の降る日ではありましたが、五月二十五日（土）甲府市において県支部役員会を開催、昭和六〇年の支部総会及び懇親会は十月末頃開催することを決めました。またこうした県支部のおおよその動向についてはその都度県支部役員以外の校友にもなるべく広く案内できるよう連絡にも努めています。

前記のように長雨による農産物等への大被害、あるいは身内の者の長期入院等多くの校友の中には不運に見舞われた者もありますが、県支部校友の活躍状況をみると、①農業を営みながら研究、[illegible]生（桃）を育成　この一月には国の種苗登録をしたり、②山梨県職員としては数少ない博士号取得者（学位論文…ブドウの銅過剰障害に関する研究）が出現したり、③これまでの学校教育等を海外において生かせるよう東南アジアで果樹等の試験栽培を続けている者等校友の活躍は今年も確実に上っています。

県支部としての表面上の事業は現在のところ支部会員名簿（約四〇〇名）作成、総会及び懇親会の開催といった程度ですが各校友のそれぞれの活躍は近い将来県支部の運営にも反映してくるものと期待しています。

昭和六〇年の総会及び懇親会は石和町で開催予定（当初予定よりおくれ十一月中旬の予定）につき多くの校友の参加を期待します。

（小沢 寛）

秋田県支部が発足

各界での飛翔に期待

昨年（昭和五十九年）のある日同窓の平野さんの突然の訪問を受け、しばらく振りの来訪で驚いたのですが、積もる話に花を咲かせている中で、同窓の方々が一堂に会することが出来ないものかとの話になり、早速企画してみようということになったところです。

そこで、準備会を設けることとして、人選にかかりましたが、誰が同窓生で、何処に居るのか、で困ったのですが、取りあえず、身近かにいる同窓知人を委員としてお願いし、準備会に参集を得て有志による発起・主催で開催することに決定したところです。

ただちに、名簿作成に取りかかったのですが、これが苦労の種でありまして、かなりの日数を費やして、ようやく二百数十人にも及ぶ名簿を作成しました。名簿を作成して、作成に参加した各委員がひとしく驚いたことは、非常に親しい先輩・知人が同窓であることがわかったことです。「あの人も同窓か、この人も先輩か、後輩か」といったようなことです。これによって、更に一層親密さを加えたようです。そして、何時か開催される会合を楽しみとすることになったところです。名簿の作成と同時に、昭和六十年の二月二日（土）と決定した「日本大学農獣医学部秋田県校友会」の結成総会の案内を発送したのですが、はたして、出欠の有無にかかわらず返事を得ることができるか、どうか不安がありましたが、不安が杞憂に終り、名簿が最終的に作成完了し、結成総会の当日を待つこととなったところです。

いよいよ総会当日を迎え、約四十人近い同窓生の参集のもとに開会し、満場一致で秋田県校友会と支部の結成を決定しました。そして、会長等の役員選出のあと、出席者全員で校旗と久木田学部長のメッセージの下で校歌を斉唱したが、しばらく振りで、思いをこめて、思いの限り高吟したのですが、万感が胸に迫った者が多く感涙はむせび泣く声さえ聞かれたところです。明治・大正の時の卒業生やごく最近の卒業生まで、それぞれの世代であり、帰する思いもまた自ら違うと思いますが、校旗のもとに一体化したものと感じられました。

懇親は、各学科ごとに座席を設定して行なわれましたが、最初はぎこちないフンイキでしたが、次第に開放し、ある者は遠い過去の思い出にふけり、またある者は、何年ぶりかの出会いに、なつかしさ一入の者もおり、宴は一層の盛り上がりをみせたのでありまして、こんなに楽しく、意義のあることを何故もっと早く実現しなかったのかと反省した次第です。

先輩は、すでに県内各界の枢要の地位にあり、ますますの活躍を、また、後輩は、無限の可能性の実現を期して着実に地歩を築きつつありまして、まさに[illegible]であります。

再び出合いの機会を早くもち、同窓校友間の親交をさらに深め、一層きずなを強くし、各位の各界における飛翔を期したいと存じます。

（佐藤鉄太郎）